

多摩市 気候市民会議

第3回 脱炭素に向けて 社会編

脱炭素に向けて、まちに必要な機能やしくみを考えよう

2023年 6月 17日(土)

13:30～17:15 @多摩市役所

本日の資料

全スライド (24MB)



情報提供のみ (8MB)



はじめに

- ・注意事項
- ・非常口の確認
- ・記録撮影の承諾
- ・欠席時の連絡等

多摩市気候市民会議の目的

おさらい

1. 多摩市が脱炭素社会に向かうために、 様々な主体がするべきことを考える

この気候危機を私たち一人ひとりが当事者として捉え、「何をすべきか」、「何ができるか」そして「地域としてできること」、「行政や民間事業者がすべきこと」などについて話し合う。



2. 多摩市気候市民会議の提案をまとめる

脱炭素に向けた取組の提案を考える。

成果の活かし方

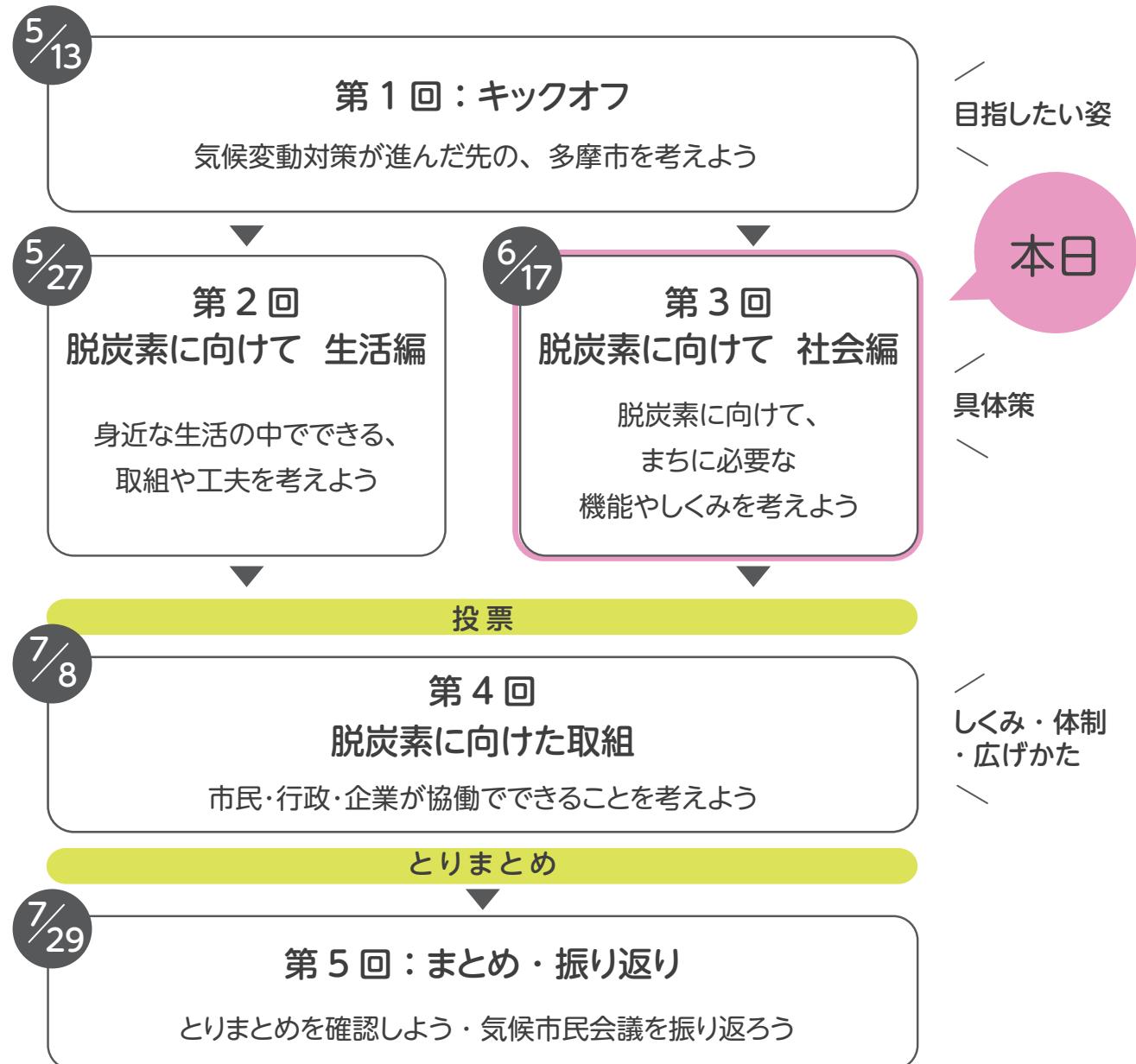
おさらい

ご提案いただいた内容は、
「次期多摩市みどりと環境基本計画」の
具体的な取組に反映していく予定です。

「多摩市みどりと環境基本計画」とは？

本計画は、第五次多摩市総合計画で掲げる目指すまちの姿のひとつである「人、自然、地球 みんなで環境を大切にするまち」の実現に向けて、みどり分野と環境分野が密接な関係にあることから、両分野の総合的な計画として策定するものです。

全5回の進め方



本日の目的



脱炭素に向けて、
まちに必要な機能や
しくみを考えよう

本日の進め方

- 目的と進め方・前回の振り返り(10分)
- 情報提供 脱炭素に向けて 社会編 : 山下紀明 先生 (30分)
- 市民団体の取組の紹介 (15分)
 - よみがえれ、大栗川を楽しむ会 事務局メンバー 小山貴弓様
 - 多摩グリーンボランティア森木会 名誉会長 川添 修 様
 - 多摩市若者会議 高野 義裕 様

休憩 (5分)

- グループワークの進め方 (5分)
- グループ別意見交換 (90分)
脱炭素に向けて、まちに必要な機能やしくみを考えよう

休憩 (5分)

- 全体共有・全体シール投票 (40分)
- 本日の総評:江守正多先生 (10分)
- 次回のご案内・アンケートの記入 (10分)

前回の 意見交換の ふりかえり

詳しくは、
「開催レポート」を見てね



多摩市
気候市民会議

第2回 脱炭素に向けて 生活編
身近な生活の中でできる、取組や工夫を考えよう

開催レポート

日時：2023年5月27日(土) 13:30～17:15
場所：多摩市役所 本庁舎3階 301-302会議室

1



前回のワークショップで行ったこと

具体策

テーマ

身近な生活の中でできる 取組や工夫を考えよう

進め方



グループに分かれて
アイデア出し

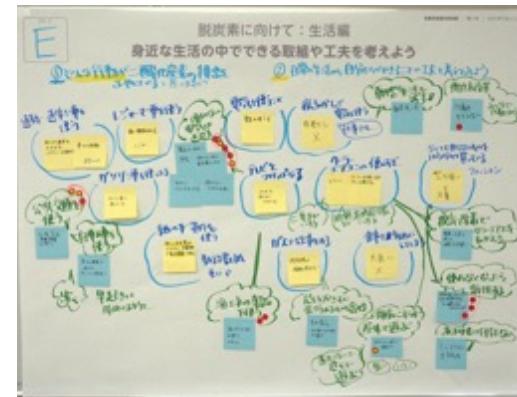


全体共有



全体シール投票

グループの模造紙



グループのイチオシアイデア



アイデアはどうやって整理したの？

第1回のご意見をまとめた9つの「テーマ」と「30年後の多摩市の環境・社会のイメージ」をもとに整理しました

豊かさ

食・消費

住まい・
暮らし・健康

エネルギー

移動

みどり・自然・
生態系

協働・連携

学び・
情報発信

選ばれるまち・
ブランディング

食・消費

30年後のイメージ	アイデア
食やエネルギーの自給率が高いまち	<ul style="list-style-type: none">●直売所やJA、地域のお店でものを買うようにする
リデュース・リユース・シェアが進んだ、ごみや無駄なロスがないまち	<ul style="list-style-type: none">●マイ〇〇を使う●使い捨てプラスチックを削減するためにマイボトルを使う●プラスチック製品をできるだけ減らした生活をする●使っていないものをただ捨てるのではなく、使える人に渡していく●不要になるものは買わない●不要になったものは売る、譲る●エコなものや、愛着の沸く良いものを長く使う●食べ残しが出ないように、食べきれる量にしたり、レシピを工夫する●電子媒体(デジタル)をなるべく使うことで、本などの消費を減らす

住まい・暮らし・健康

30年後のイメージ	アイデア
環境と経済に 優しい住まいに 暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none">●家電や電気機器を適切に交換する●電気のムダ使いをなくす●グリーンカーテンを育てて、住まいのエネルギー効率を上げる

移動

30年後のイメージ	アイデア
歩き・自転車で暮らしやすい、コンパクトなまち	<ul style="list-style-type: none">●なるべく歩く●車の利用を減らし、なるべく公共交通や自転車を使う●エコな移動を心がける
CO2を排出しない手段で移動している	<ul style="list-style-type: none">●ソーラー発電の電力で電気自転車のバッテリーを充電できるスポットをつくる●CO2の排出が少ない移動手段で生活する

学び・情報発信

30年後のイメージ	アイデア
環境や気候変動について学び、情報発信を積極的に行っている	<ul style="list-style-type: none">●まずは自分の生活のことを“知ること”から始めて意識する●SNSで多摩市気候市民会議を宣伝し、将来的に感度の高い市民が集まつくるように発信する

協働・連携

30年後のイメージ	アイデア
企業との連携を活かして、みんなで気候変動対策に取り組んでいる	●「CO2削減」の技術会社に投資する

情報提供

脱炭素に向けて 社会編

山下 紀明 先生

多摩市みどりと環境審議会 地球環境分科会会长
特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所(ISEP)
理事・主任研究員

まちに
必要な機能や
しくみを考える
ヒント

多摩市気候市民会議第3回

脱炭素に向けて 社会編

移動・まちづくりで地域の脱炭素を促進してまちを良くする

2023年6月17日
山下 紀明



特定非営利活動法人
環境エネルギー政策研究所 主任研究員（理事）

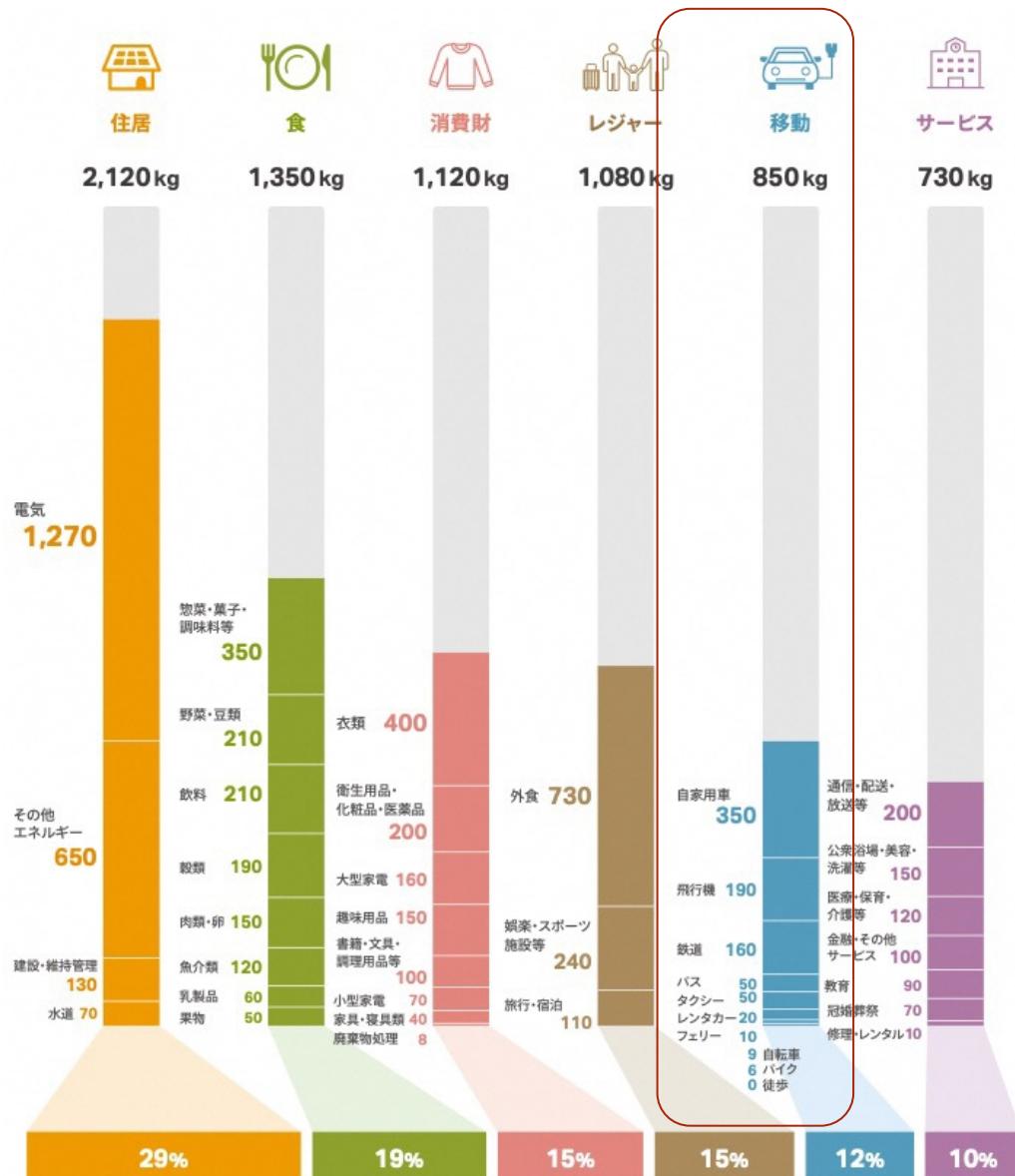


名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻
博士後期課程（知の共創プログラム特別コース）

目次

1. 移動で暮らしを変える
2. 脱炭素でまちを変える
3. 発想を広げて、大きくする

東京都区部の分野別家計消費カーボンフットプリント（再掲）



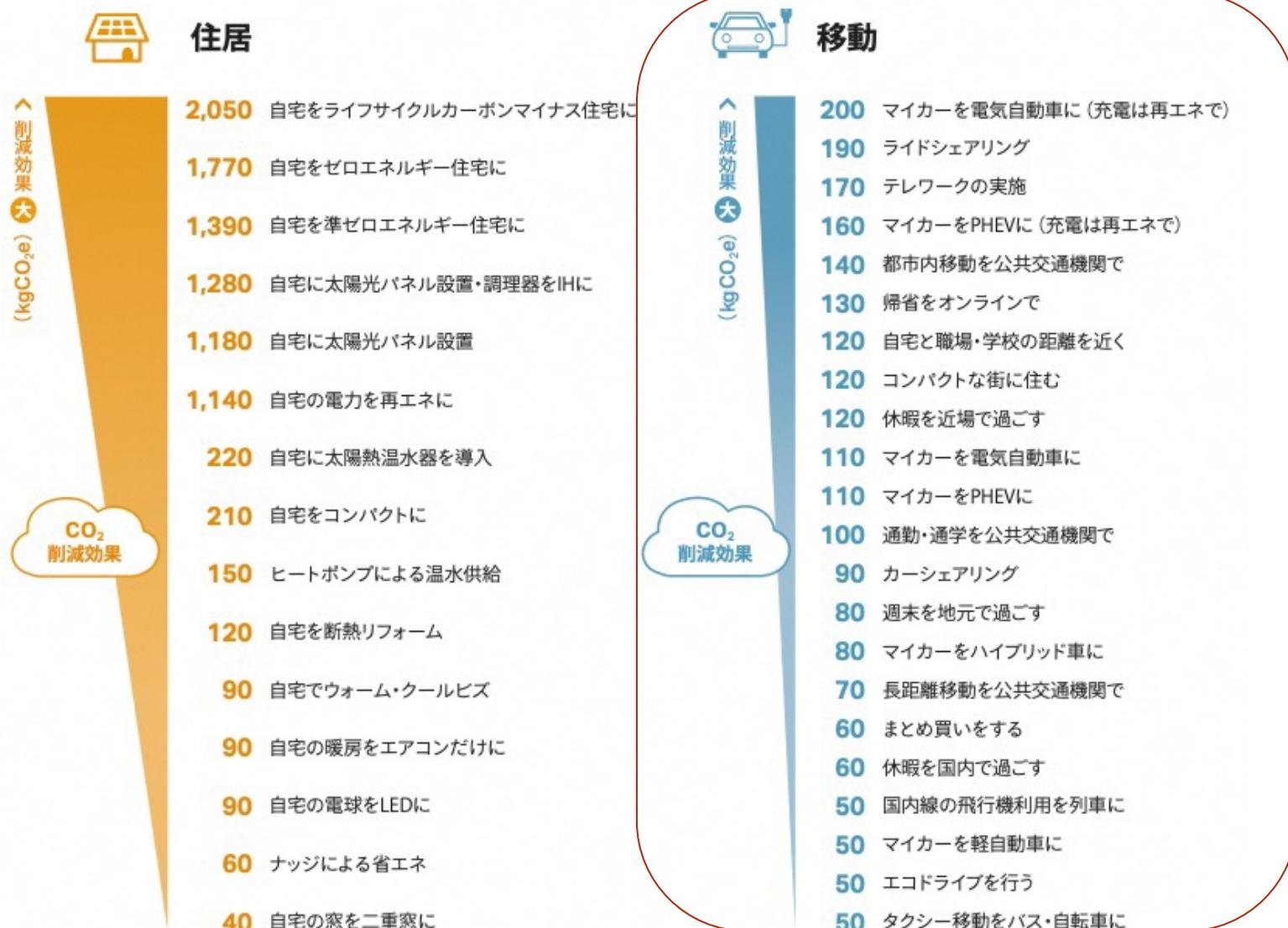
現状の1人1年当たり：7,270kgCO₂e

2030年目標：3,000kg
(1.5度目標と整合)

出典：Ryu Koide, Satoshi Kojima, Keisuke Nansai, Michael Lettenmeier, Kenji Asakawa, Chen Liu, Shinsuke Murakami (2021) Exploring Carbon Footprint Reduction Pathways through Urban Lifestyle Changes: A Practical Approach Applied to Japanese Cities. Environmental Research Letters. 16 084001

小出 瑠・小嶋 公史・南齋 規介・Michael Lettenmeier・浅川 賢司・劉 晨・村上 進亮(2021)「国内52都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢：カーボンフットプリントと削減効果データブック」

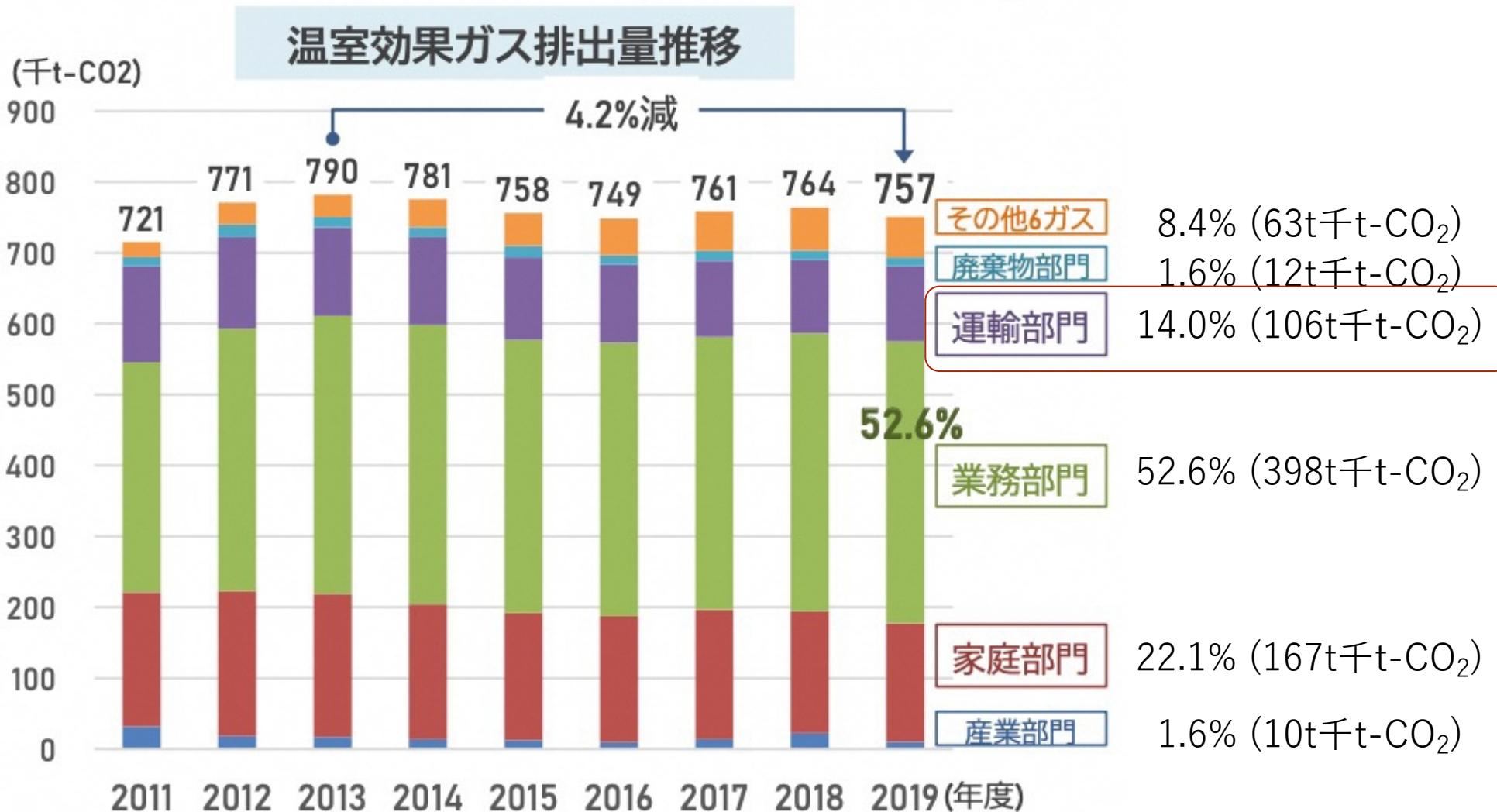
東京都区部の脱炭素型ライフスタイル選択肢1（再掲）



出典：前掲

多摩市の温室効果ガス排出量の現況（再掲）

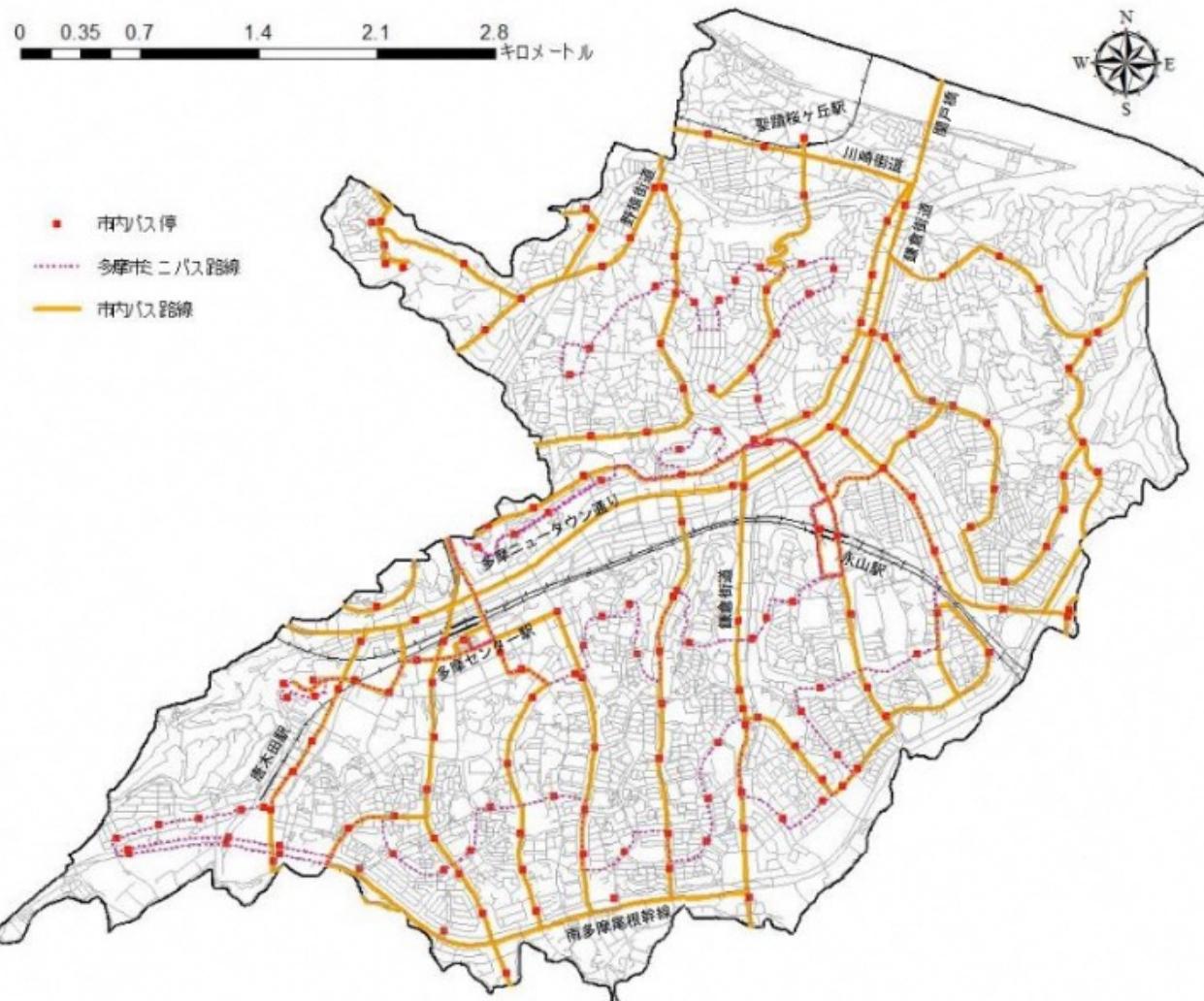
2019年度で業務が約半分だが、家庭や運輸も一定ある



出典：多摩市再生可能エネルギービジョン概要版および本編（2023）

市内の公共交通ネットワーク図（再掲）

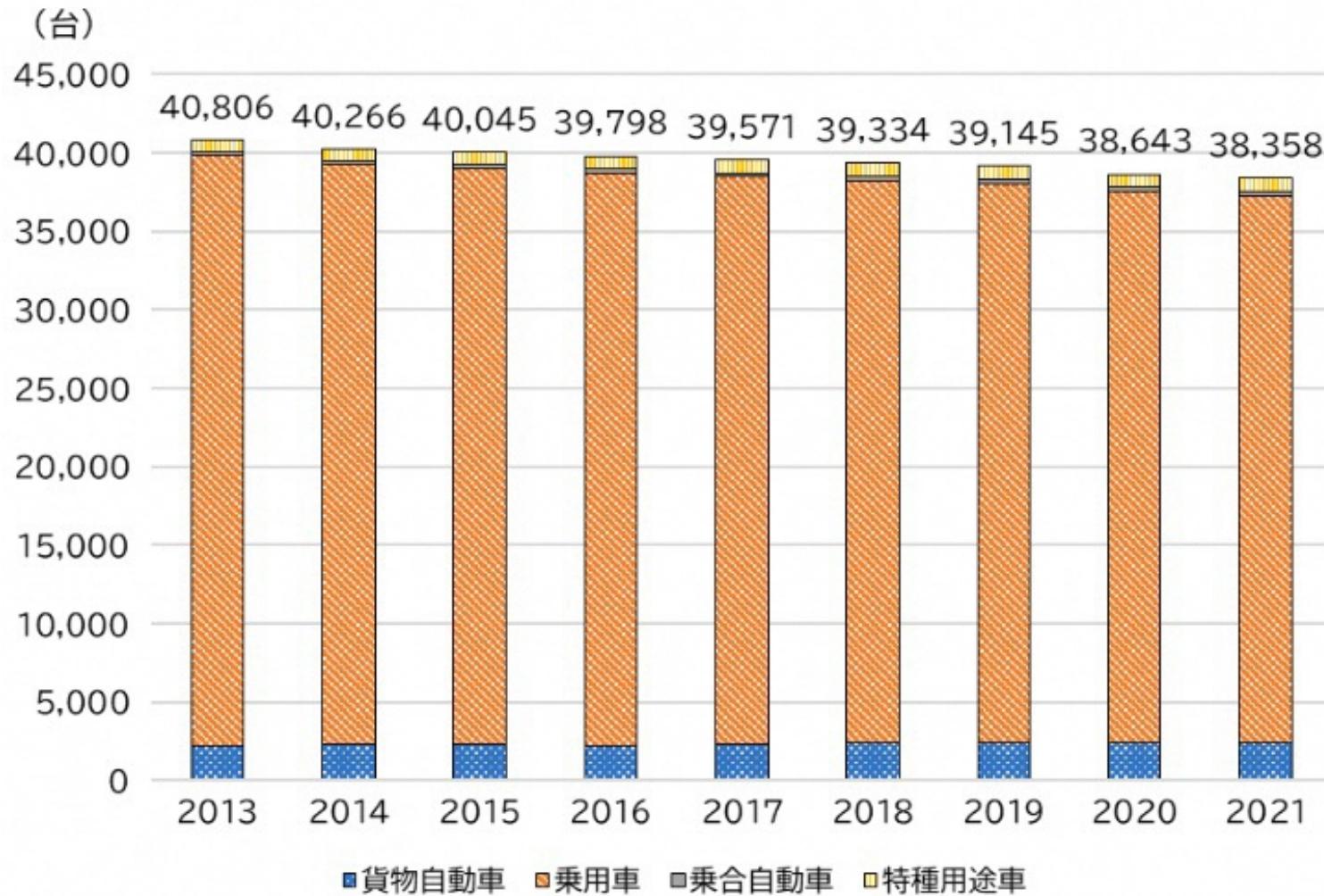
東西の鉄道とバス路線が中心



出典：多摩市再生可能エネルギービジョン本編（2023）

市内の自動車保有台数（再掲）

乗用車が多く、微減傾向



出典：多摩市再生可能エネルギービジョン本編（2023）

小田原の電気自動車のカーシェアリング



尾道の自転車ツーリズム



グリーン・スロー・モビリティ（電動カート）



しまなみ海道ツーリング



自転車のまちづくり（デンマーク・コペンハーゲン）



各種マイクロモビリティ（スイス・チューリッヒ）



シェアサイクル・・・(ドイツ・ベルリン)



トラム（ドイツ・ダルムシュタット）



トラム（ドイツ・ダルムシュタット）



道路から歩行者天国へ（ドイツ・ダルムシュタット）



自転車の積み込み（ドイツ・長距離電車）



グリーン電力での運行（ドイツ・長距離電車）



自転車の積み込み（ドイツ・長距離電車）



子連れ用スペース（ドイツ・長距離列車）

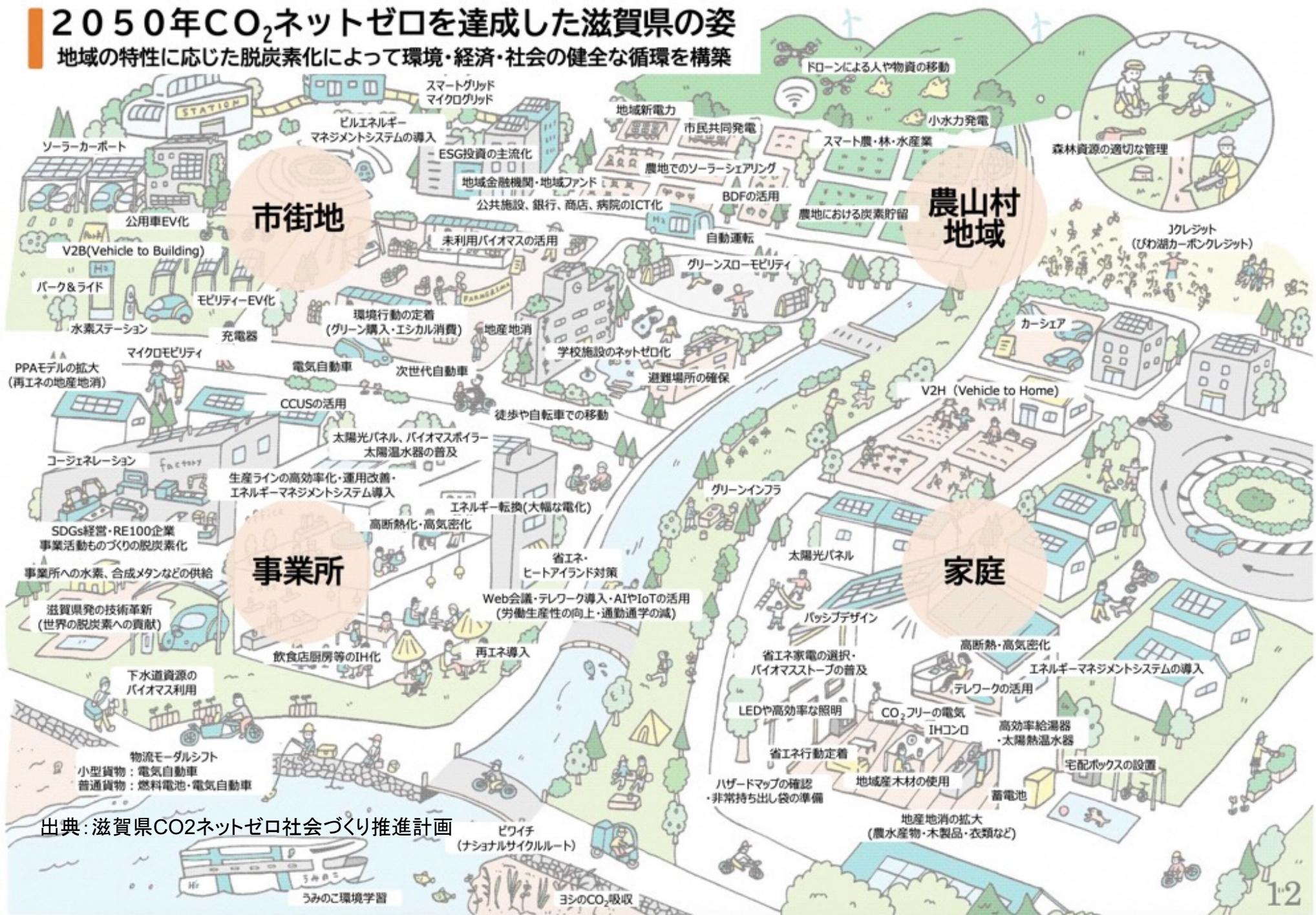


目次

1. 移動で暮らしを変える
2. 脱炭素でまちを変える
3. 発想を広げて、大きくする

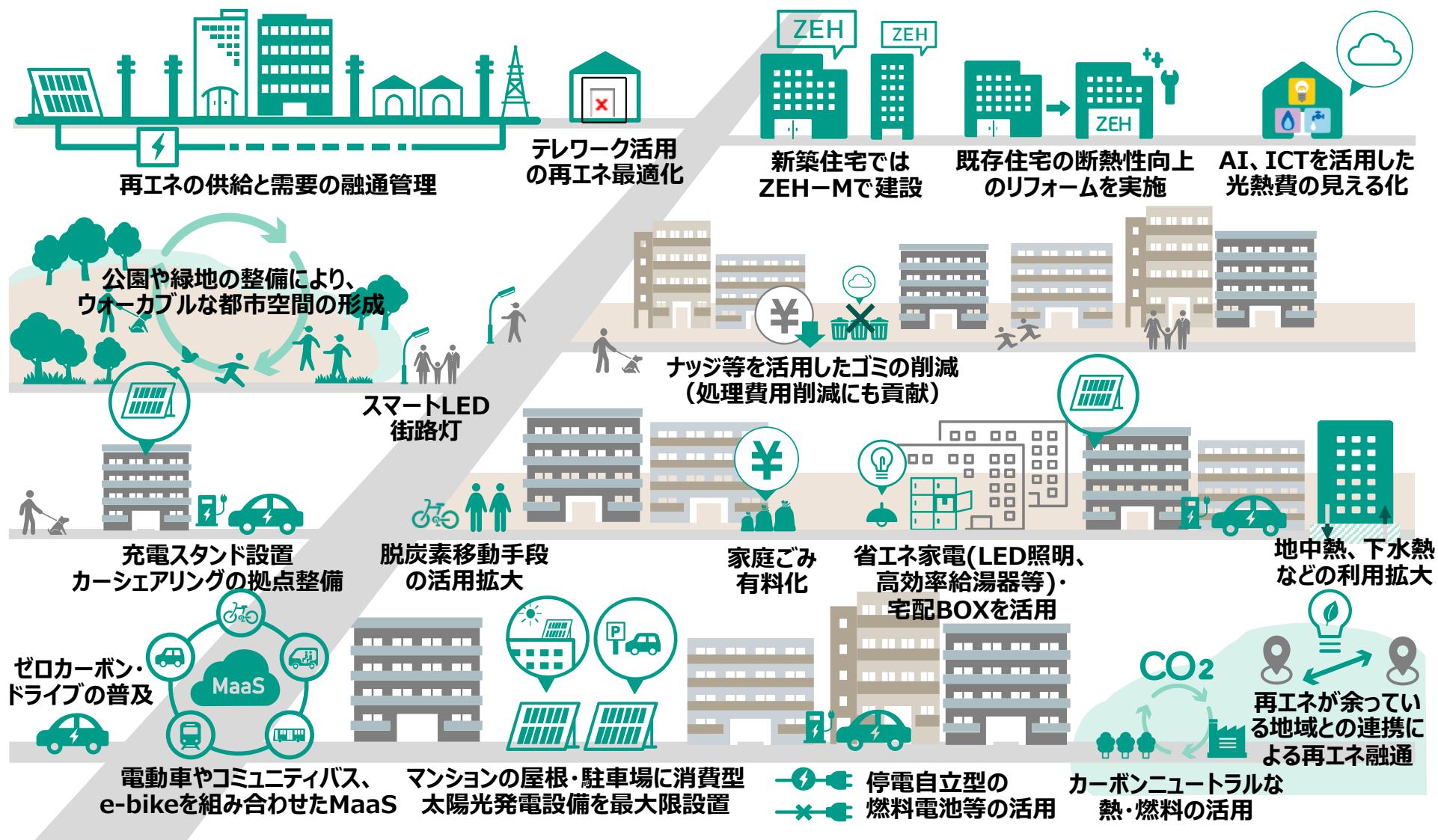
2050年CO₂ネットゼロを達成した滋賀県の姿

地域の特性に応じた脱炭素化によって環境・経済・社会の健全な循環を構築



出典: 滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画

住宅街・団地（集合住宅中心）の脱炭素先行地域イメージ（再掲）

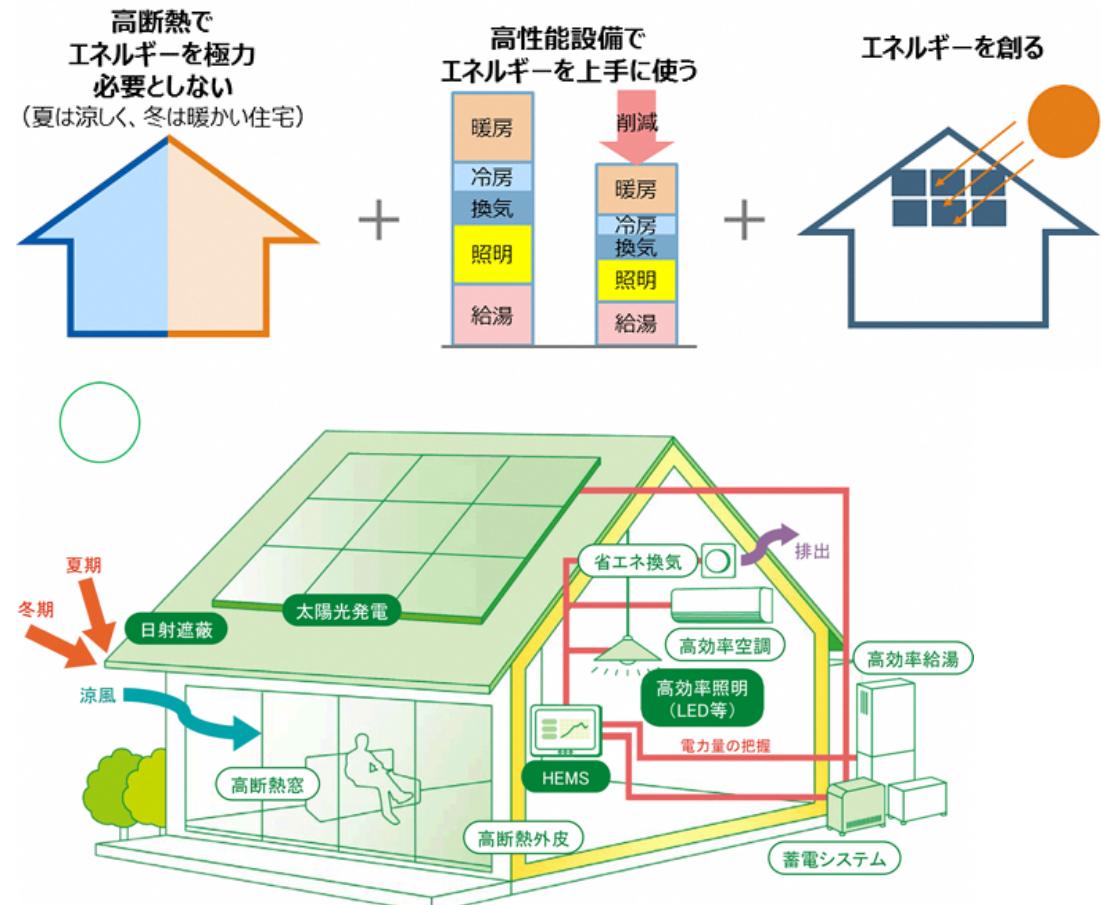


※このページに表示しているイラストは先行地域そのもののイメージであり、先行地域の外から再エネを供給する再エネ立地地域のイメージは紙面の都合上記載していない。

ZEH（ゼロエネルギー・ハウス）で、快適かつCO₂削減に（再掲）

ZEHにより初期コストは上がるが、光熱費が下がり、快適・健
康性が上がり、災害対策にもなる。

- 国の目標は2030年には新設住宅の半分、2050年にはストックの半分でZEH
- 国の目標を地域で加速することは可能
- 長野県は信州型健康ゼロエネ住宅として推進



既存ZEB～久留米市環境部庁舎の概要～

きっかけ

老朽化していた空調の設備更新を機に温室効果ガス削減を目指す

2019年度

ZEB化可能性調査(4施設)を実施 『ZEB』可能確認

補助事業へ応募、採択

設計 既存の公共建築物では全国初となる『ZEB』認証を取得

2020年度

本格的に施工

2021年度

PEB運用試験

Z E B の 分 類	『ZEB』
建 物 名 称	環境部庁舎
構 造	鉄筋コンクリート造
階 数	地上 3 階
延 床 面 積	2,089m ²
建 物 用 途	事務所等
一次エネ削減率	106%



既存ZEB～久留米市環境部庁舎の導入設備～



太陽光発電設備

発電容量：52.1kW
予想発電量：58,340kWh／年



蓄電池

蓄電容量：89.2kWh
蓄電池の導入により、停電時においても災害拠点施設としての機能を発揮



LED照明

高効率なLED照明、照度センサ導入
消費電力量は、同仕様の建物に対して約77%減。



高効率空調

能力合計：103kW
断熱性向上により空調負荷を大幅削減
消費電力量を約60%削減



全熱交換換気扇

換気の際に排出される、涼しさ・暖かさを回収可能。全熱交換換気扇導入により空調負荷を大幅低減



Low-E ペアガラス

通常の単板ガラスと比較して、約3倍、熱や冷気を通しにくいガラス
建物の断熱性能が大幅に向上

白馬高校の断熱改修ワークショップ

高校生自らの発案により、教室を専門家といっしょに断熱改修 + レクチャー。



Drewitz 貧困地域の団地の省エネ改修とまちづくりについて

対話を通じて、省エネ改修と同時に貧困地域の転換に取り組む

- 1989年に東ドイツ時代最後の団地として作られ、2009年EUの持続可能な自治体コンペに応募し、建築、都市計画、交通、エネルギーの4つの要素で地域を変えてきた。
- 断熱とともに余剰電力を使って熱を作り天然ガスコジェネとともに地域熱供給をしている。
- 道路や駐車場を減らし、歩道や子どもの遊び場、中庭などに変えている。
- 複数のディベロッパーがアパートメントを所有しているにもかかわらず、共有の中庭を整備したり、必要であれば街区の統一性のために減築をしていること。
- 様々な収入帯、人種などを混在させている。



ドイツ・ドレヴィッツの団地の省エネ改修とまちづくり



ドイツ・ドレヴィッツの団地の省エネ改修とまちづくり



ドイツ・ドレヴィッツの団地の省エネ改修とまちづくり



ドイツ・ドレヴィッツの団地の省エネ改修とまちづくり



ドイツ・ドレヴィッツの団地の省エネ改修とまちづくり



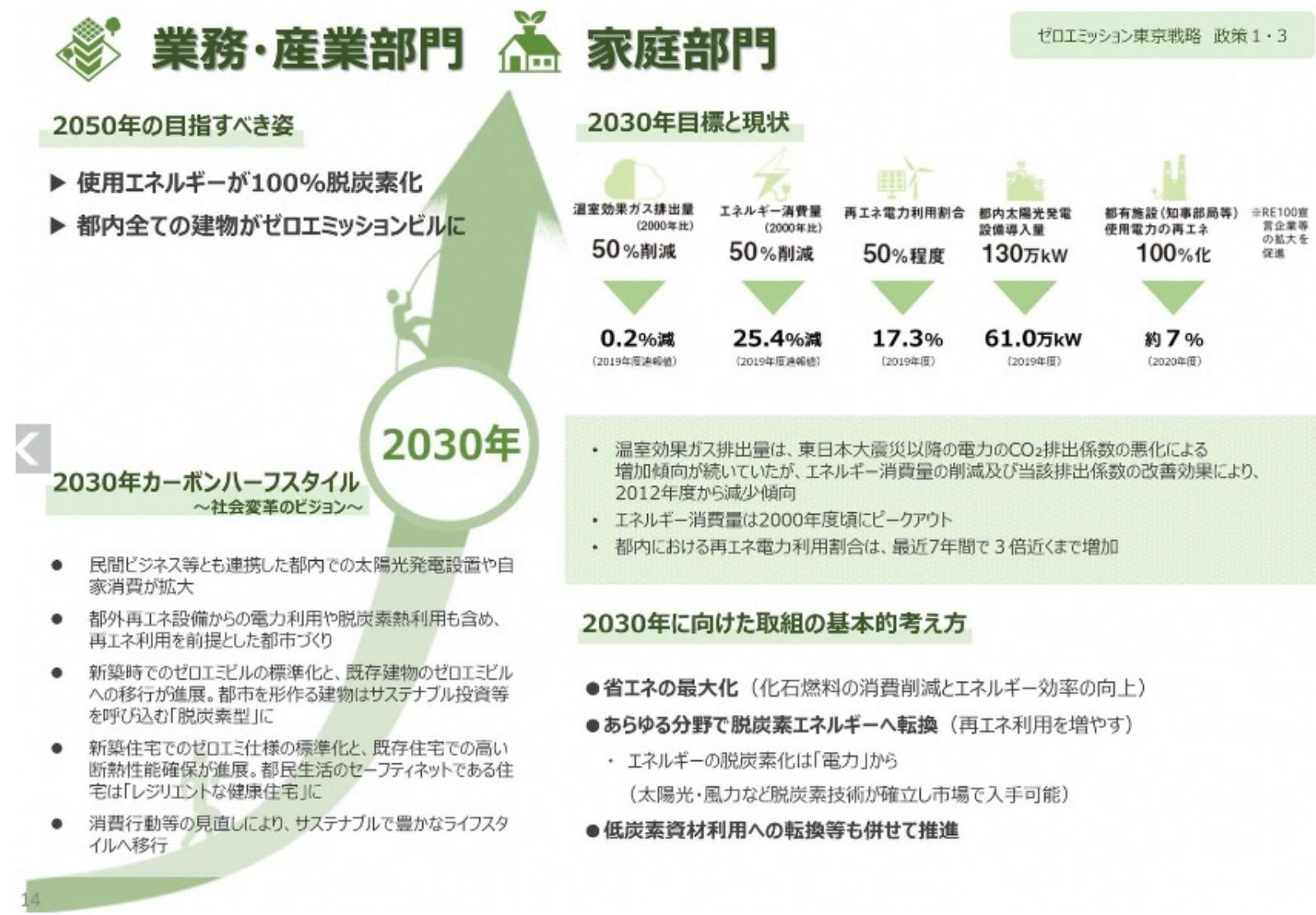
ドイツ・ドレヴィッツの団地の省エネ改修とまちづくり



目次

1. 移動で暮らしを変える
2. 脱炭素でまちを変える
3. 発想を広げて、大きくする

主な東京都の目標



主な東京都の目標

ZEV 運輸部門

2050年の目指すべき姿

- ▶ 人やモノの流れが最適化
- ▶ 都内を走る自動車は全てZEV化
- ▶ 再生可能エネルギーの利用が進み、
Well-to-Wheel^{※1}における
ゼロエミッションを実現

※1 燃料を手に入れる段階（井戸）から実際に走行させる段階（車輪）まで全体を通しての環境負荷を示す概念

2030年

2030年カーボンハーフスタイル ～社会変革のビジョン～

- 人・モノの流れを効率化とともに、自転車・歩歩・公共交通機関の利用などCO₂排出を抑制する行動へ移行
- 環境配慮型のマルチエネルギーステーションが社会インフラとして定着
- ラインナップの多様化により小型車から大型車まで幅広くZEVが普及し、多様なニーズに対応できる自動運転やMaaS^{※2}利用社会に向けたモビリティ改革が進展
- ゼロエミッションバイクの市場が拡大し、二輪車の非ガソリン化が加速

※2 Mobility as a Serviceの略。出発地から目的地まで、利用者にとって最適経路を提示す
とともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、一括して提供するサービス

※3 二輪車については、実績値の把握方法を検討中

※4 非ガソリン車：ZEV、ハイブリット自動車(HV)のこと（乗用車に加えバスや貨物車、二輪車
を含む。）。

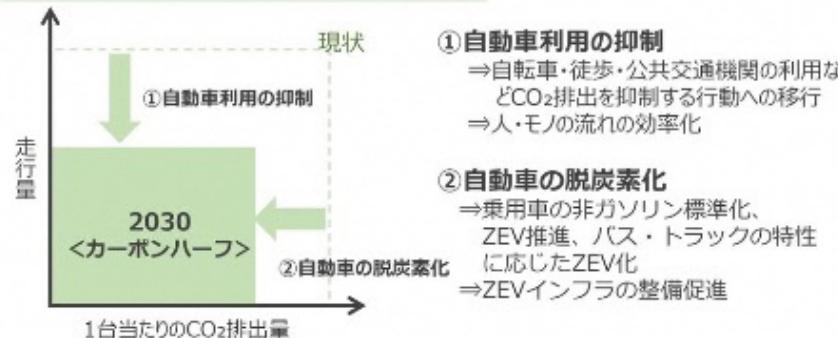
ゼロエミッション東京戦略 政策4

2030年目標と現状

目標	現状
乗用車新車販売 100% 非ガソリン化	40.2% (2020年度)
二輪車新車販売 100% ※ ^{※2} 非ガソリン化	— ^{※3}
乗用車の新車販売台数 に占めるZEVの割合 50%	2.3% (2020年度)
ゼロエミッション バスの導入 300台以上	108台 (累計) (2020年度)
小型路線バスの 新車販売 原則ZEV化	2.7% (2020年度)
ZEVインフラの整備 1,000基	326基 (2020年度)
急速充電器 水素ステーション の整備 150か所	22か所 (2020年度)

- 各種施策により自動車走行量は減少してきたが、ここ数年は横ばい傾向であり、「自動車」から「CO₂排出を抑制する移動手段（自転車など）」へ転換を促進することが必要
- 非ガソリン車^{※4}の乗用車の新車販売は近年増加傾向であるが、ガソリン車と比較して車両価格が高いことから初期費用の軽減と、ZEV普及に向けた充電インフラの設置拡大が必要

2030年に向けた取組の基本的考え方



小田原の地域エネルギー事業の段階的発展（再掲）

地域に軸足を置いた事業者として、地域の受容性を高める事業、インフラの転換、地域の課題解決につながる事業を進めること。



山にお金を落とす太陽光



電気自動車カーシェアと再エネによる連携



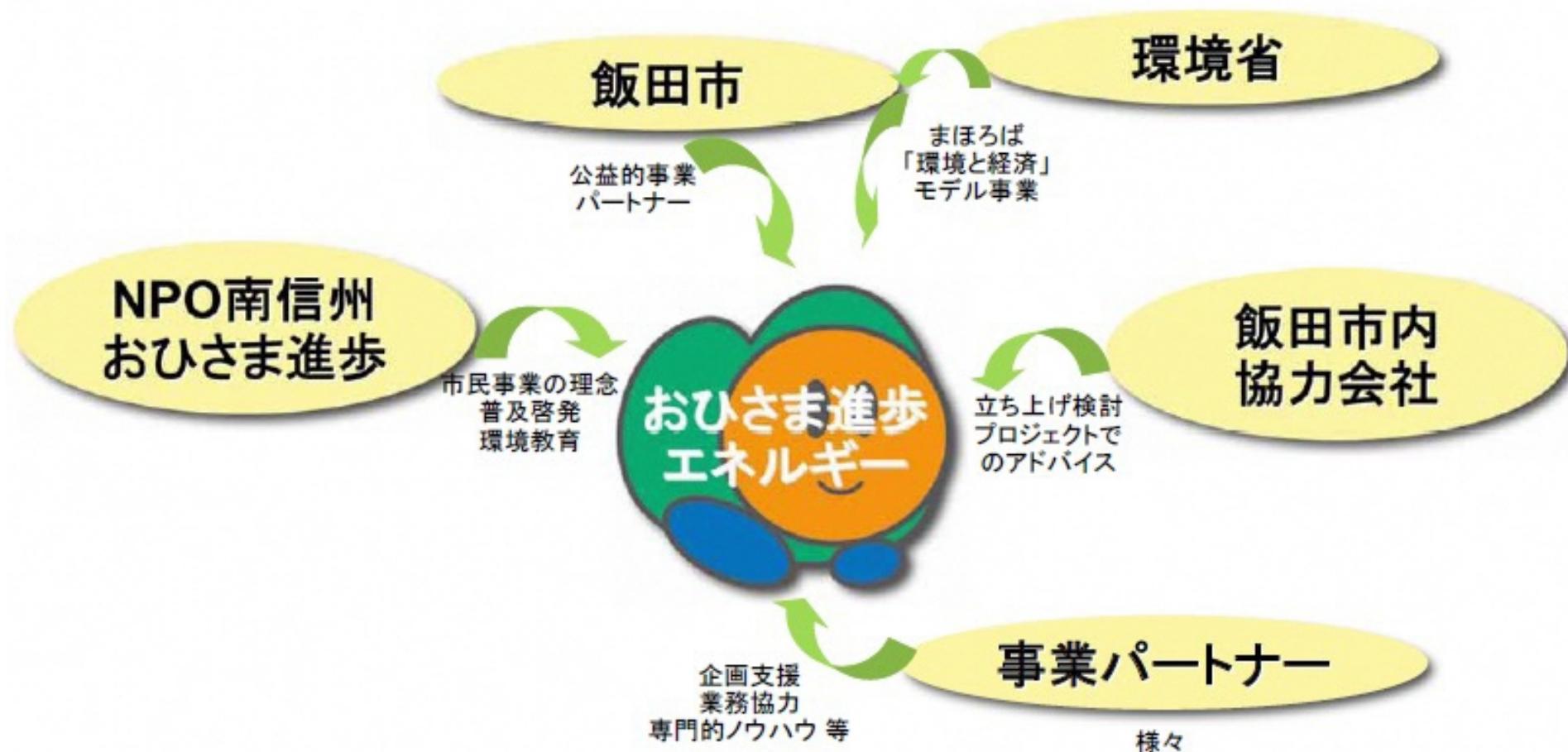
災害に備えたマイクログリッド



小田原留学 地域の課題解決×人材育成

長野県飯田市 おひさま進歩エネルギー

環境省が欧州の地域環境エネルギー事業をヒントに2004年度から開始した「平成のまほろば事業」により誕生



さひさま市民井筒歓迎会

あ
さ
ひ
さ
ま
市
民
井
筒
歓
迎
会



写真提供:おひさま進歩エネルギー株式会社

長野県飯田市・おひさま進歩エネルギーの18年の共進化

1. 2004年から37か所の幼稚園・地域センターへ2億1500万円の市民出資と環境省の支援で太陽光設置
2. 市は20年間の屋根貸しと固定価格での電気買取で支援
3. その後も拡大し、環境教育や省エネ事業も継続
4. 市は環境未来都市に選ばれ、将来像に自然エネルギーが統合されている
5. 市の地域環境権条例に基づき、自治区や中学校生徒会との協働事業などを推進

飯田市再エネの導入による持続可能な地域づくりに関する条例

■概要

- ・まちづくり委員会や地縁団体等が自然エネ事業を行い、売電収益を主に地域が抱える課題に使うことで、市民が主体となって住みよく便利な地域づくりを進める事業を、飯田市との協働事業に認定し、支援をしていく。
- ・自ら事業を行うことが困難なとき、他の公共的な団体や、市民益に配慮して公共活動を行う企業と協力して発電事業や再投資を行う事業も、同様に支援。

■条例による支援の主な内容

- 1.住民団体による発電事業計画に対し、様々な専門家による飯田市の審査会から、安定的な運営のために必要な助言と提案を無料で受けられる。
- 2.事業の公共性と経営安定性を飯田市が公的に認証・公表し、信用力を与え、資金力が乏しい団体でも、地域金融機関等からの貸付けや、市民ファンドが行いやすくなる
- 3.「飯田市再生可能エネルギー推進基金」により、事業の建設工事の発注のために直接必要となる調査費用を、無利子で貸付けを受けられる。

1) 移動で暮らしを変える

- ・多摩市の移動に関するデータやライフスタイルとしての移動
- ・グリーン・マイクロモビリティや自転車の活用も
- ・海外事例も含めて、機能やしくみを広く考える

2) 脱炭素でまちを変える

- ・戸建て住宅や集合住宅も個人の選択だけでなく、まちづくりとして見てみる
- ・まちづくりに関するコベネフィットが大事

3) 発想を広げて、大きくする

- ・東京都（や国）の制度は前提として、さらに多摩市でどう加速できるか？
- ・「じぶんできること」から「みんなできること」へ
- ・「みんなの選択肢を増やすアイデア」へ

活動紹介

よみがえれ、 大栗川を楽しむ会

事務局メンバー 小山 貴弓 さま

多摩市 気候市民会議

まちに必要な
機能や
しくみを
考えよう

第3回 脱炭素に向けて 社会編
2023年6月17日（土）
13:30～17:15 @多摩市役所



事務局メンバー
おやま きゆみ
小山 貴弓

当会は、多摩市と八王子市を流れる大栗川に親しみ、豊かな自然環境を守り育て、より身近な川にしようと2002年から活動、20年が経過。



■大栗川清掃活動

- ・毎月第一日曜日 10:00～12:00
(7～9月まで9:30～11:30)

■乞田川清掃

- ・奇数月第三日曜日 時間同上

■マイクロプラスチック調査協力

- ・多摩市環境政策課および中央大学西川ゼミ、山村ゼミ、ホーテス・シュテファンゼミ共催の多摩市内河川のマイクロプラスチック調査に協力。「官・学・民」の協力体制、初構築。大栗川・乞田川の調査地点すべてで、マイクロプラスチックを検出。

●多摩市消費生活フォーラム&エコ・フェスタに参加

- ・12月活動報告展示。

●TAMAサスティナブルアワード2023

- ・「プラスチック・スマート部門」大賞受賞。

●一ノ宮用水路生き物調査

- ・大栗川に流れ込む水路の生き物観察・調査。4月、9月、11月実施。

●多摩市「水辺の楽校」の事業協力

- ・水辺の楽校式参加（4月）。大栗川清掃活動の集計データの報告発表。
- ・多摩市内小学校に対する、水辺環境教育等協力。
- ・全国一斉川の水質調査実施。
- ・「乞田川の恵み」(コロナ禍で数年中止)。
- ・川の野鳥観察会（大栗川清掃と日程が重なり、中止）。

●連光寺湿地環境保全活動

- ・「連光寺東谷戸の会」活動協力。
- ・希少貝類・ヘイケボタルの経過観察、水路・ミニ水田・周辺樹林の管理等。
- ・湿地の生き物調査。

●大栗川水辺まつり

- ・コロナ禍で数年中止。





ごみ拾いを初体験❤

ごみの種類の多さ と量にビックリ！

仲間の皆さんへの感謝と励ます言葉

ごみを数えよう！

写真を撮ろう！



※当会が使用しているフォーマット。

An illustration of a woman with short brown hair, wearing a pink top. A black speech bubble originates from her mouth, containing the text "そうだ ごみの見える化をしよう！" in red.

★川ごみ調査シート (記入済)

よみがえれ、大栗川を楽しむ会

分類項目	数量	備考
■容器・包装ごみ		
○飲料缶(アルミ、スチール)	50	
飲料	1	
○ペットボトル	23	
○ペットボトルのキャップのみ		
袋	85	&[かけら・破片]多数
○レジ袋	521	[かけら・破片]多数
○プラ袋(レジ袋以外、菓子袋も含め)すべて		
その他	23	&[かけら・破片]多数
○紙ハサク・トロ箱、その他の容器包装	8	「豆乳の紙パック」1、「オイル缶」1、「紙カップ」5、「大きめの持ち手付きビニール袋」1
○混在ごみ(複数の容器・包装類をレジ袋等に詰め込んだ不法投棄ごみ)	1	
■産業系ごみ		
○土のう袋・フレコンバッグ	6	「土のう袋(破片)」3、「フレコンバッグ」3
○ブルーシート・農業用マルチシート		
○鉄パイプ、産業系金属類	14	「鉄パイプ」2、「鉄筋(2m)」1、「幅5cmほど細長くて薄い」鐵板」1、「太い針金」1など
○その他		
■製品ごみ		
○タバコの吸い殻	138	&「箱」18、「ライター」2、「吸い殻ケース」1
○おもちゃ・靴・CD/DVD・ボールなど	6	「靴(新品、片方)」1、「様々な大小」ボール」3、「CD」2
○衣類・オムツ・マスク 手袋など	35	「ズボン」2、「Tシャツ」1、「マスク」28、「手袋」1、「帽子(布)」2、「タオル」1
○ビニール袋(普通の傘、傘部品含む)	1	
○金属製品	6	「針金」1、「鍋」1、「ガスレンジ」1、「ACアダプター」1、「電池」2
○その他	13	「魚とり網」3、「植木鉢(プラスチック)」1、「ようこそ」1、「チャッカマン」1、「プランター」1、「スケボー」1、「ゴム片」2、「鏡」2、「玄関マット」1 &「ガラス(破片)」多数
■粗大ごみ(不法投棄)		
○自転車・バイク・家具・その他		

◆調査年月日: 2023年6月4日(日)

◆調査エリア: 大栗橋上流100m~新大栗橋~向ノ岡大橋~報恩橋(全長: 約600m)

◆参加人数: 23名 (うち子ども3名)

◆可燃系: 4袋(450袋)+7袋(200袋) / 不燃系: 2袋(450袋)+1袋(200袋)

◆特記事項:

6月2日~3日にかけて、台風の湿った空気の影響で多摩市も記録的な大雨となり、4日の清掃実施が危ぶまれました。3日の17時にメンバーで新大栗橋たもとの水量確認を行い、開催まで17時間あつたため、水が引くであろうと想定し、開催を決定しました。

翌4日の実施日は台風一過の晴天となり、水も一定量引きました。しかしながら、通常の水量の倍ほどの水深があつたため、新規参加者は水の中に入ってるの清掃はNGとし、通常メンバーもほぼ陸域や中原を中心とした清掃に徹することと致しました。

この日は、なぎ倒された陸域のカヤなどに絡まったプラスチックごみを拾うことが中心となりました。

3日まで、近年稀に見る水の勢いがあったため、多くのごみが流れてしまふことで、ごみの量は少なかったです。このような時、ペットボトルはほぼ下流に流れてしまうことも、数値から実感できました。

そんな中、「海ごみゼロウィーク」との連動で行なった今回の清掃は、たま広報や多摩市WEB、当会の独自の広報などの効果で、新規参加者で学生さんが3名(内、おひとりは港区から!)、大人1名の計4名が初の清掃体験をしてくださいました。「様々な種類のごみに驚いた」「いつか清掃で社会貢献したいと思っていた」などの感想があり、今後に期待がもてました。

工事の人は
対策
しないの?

大人は
どうして
捨てるの?

みんなの
マナーの
問題だね

お菓子の
個包装が
すごく多いなあ

ガスレンジ?!

どうして?

風に飛ばされ
たのかな?

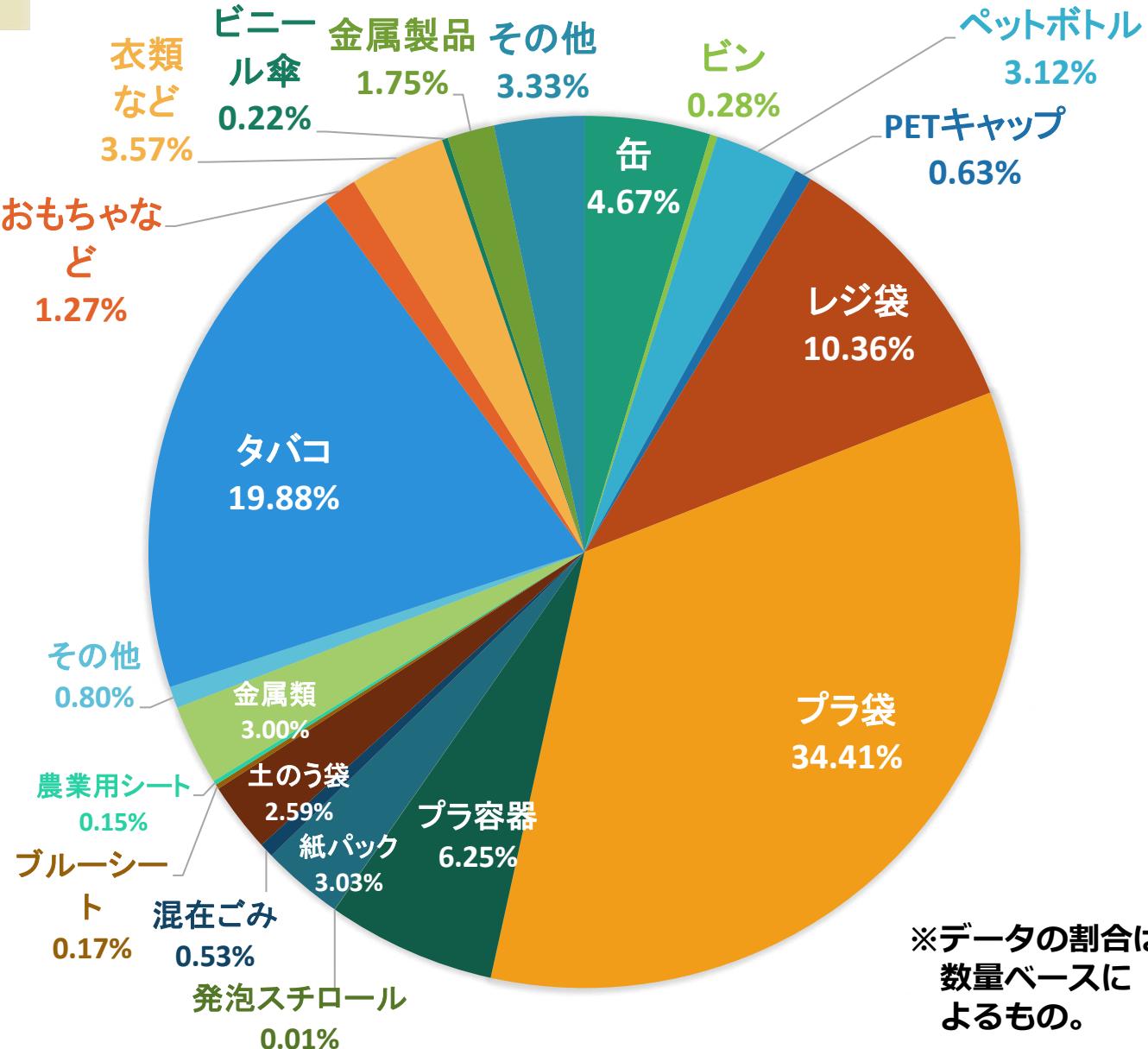


回収ごみの
内訳では
プラごみが
圧倒的に多い！



ごみの内訳

(2020年3月～2022年11月 合計の内訳)





大栗橋～新大栗橋下流のごみが圧倒的に多い！！

<原因> ①コンビニが近い。

②釣りポイントになっている。

③河原の面積が広い。

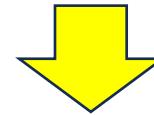
④大栗川の上流からの流れはこの地点でゆるやかになり、
上流から流れてきたごみが、ここで滞る。



なんとなくじゃなくて
フィールドワークで調査をして、**データ分析**すると
今環境に起こっていることが
ちゃんと把握できるようになる！



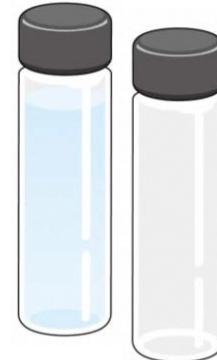
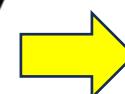
市民科学の実践



やるべきことの**ヒント**に気づく！！

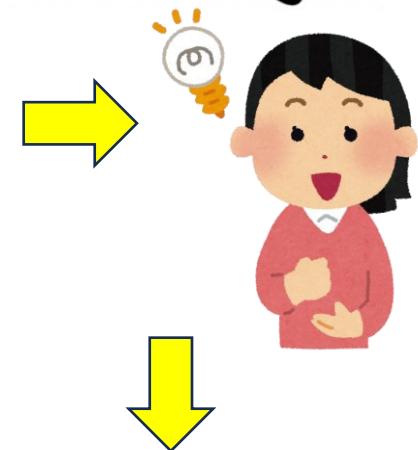


ペットボトルを減らすためには？



マイボトルを
持ってても
すぐに空に
なっちゃうから。。

水の汲み足し
ができる場所が
たくさんあれば
いいんだ！



多摩市内の飲食店・企業・公共施設など
無料で水を提供してくれる
スポット(26ヶ所)を
紹介するWEBサイトを
立ち上げた！



多摩市とウォータースタンド社の
橋渡し役になり
市内公共施設への無料の
ウォータースタンド設置
に努める



「よみがえれ、
大栗川を楽しむ会」の中
から
「みず多摩」
という新しい
グループが誕生！



共感はSTORYから！

どんなに正しいことでも、伝え方が大事。
人の心は「正しさ」では動かないから。
活動の「楽しさ」や、人の心の琴線に触れる
ような表現が必要。



忘がちだけど
ここに力を注ぐ必要があります！

多摩市ごみ対策課からのお願い

ペットボトルの 分別をしてね



© 多摩市

Step1

キャップとラベルはプラスチックへ



キャップ
ラベル
プラスチック

プラスチックマークがついています

Step2

ペットボトルはすすいで「資源」の収集日に出しましょう



ペットボトル
資源

ペットボトルマークがついています



エコミちゃん

1日3万個
ペットボトルのフタをあける作業をしている方がいます



活動紹介

多摩グリーン
ボランティア
森木会

名誉会長 川添 修さま

『多摩グリーンボランティア森木会の活動』

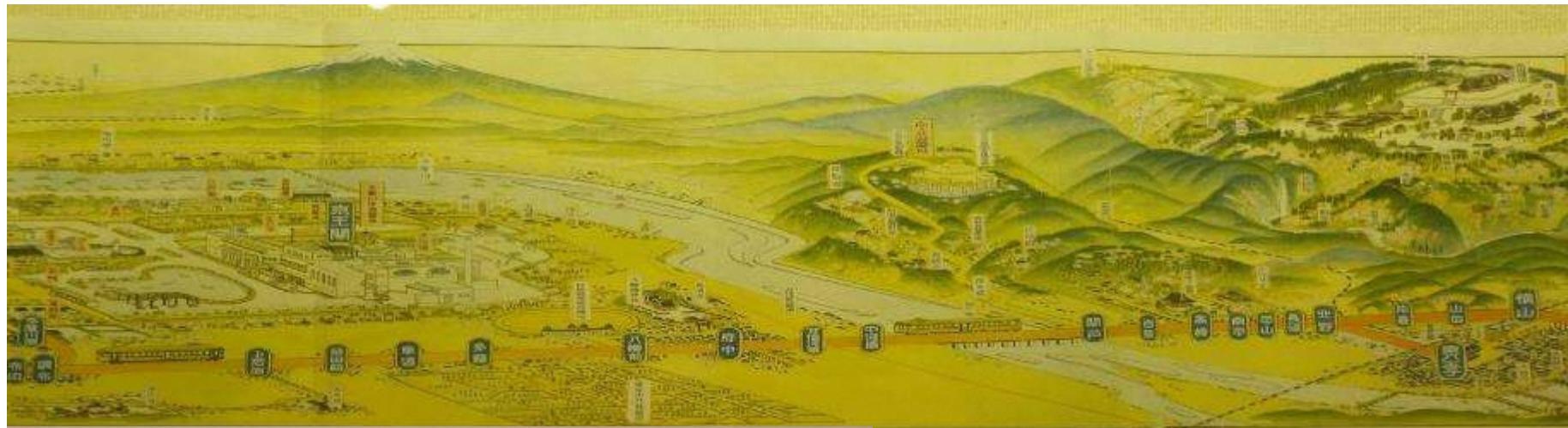
「多摩市気候市民会議にむけて」

多摩グリーンボランティア森木会
名誉会長 川添 修



写真出典:UR都市再生機構(2005年 平成17年)

多摩市の移りかわり-1



1930年(昭和5年)
1942年(昭和17年)

■ 1943年(昭和18年)、
東京都制施行。

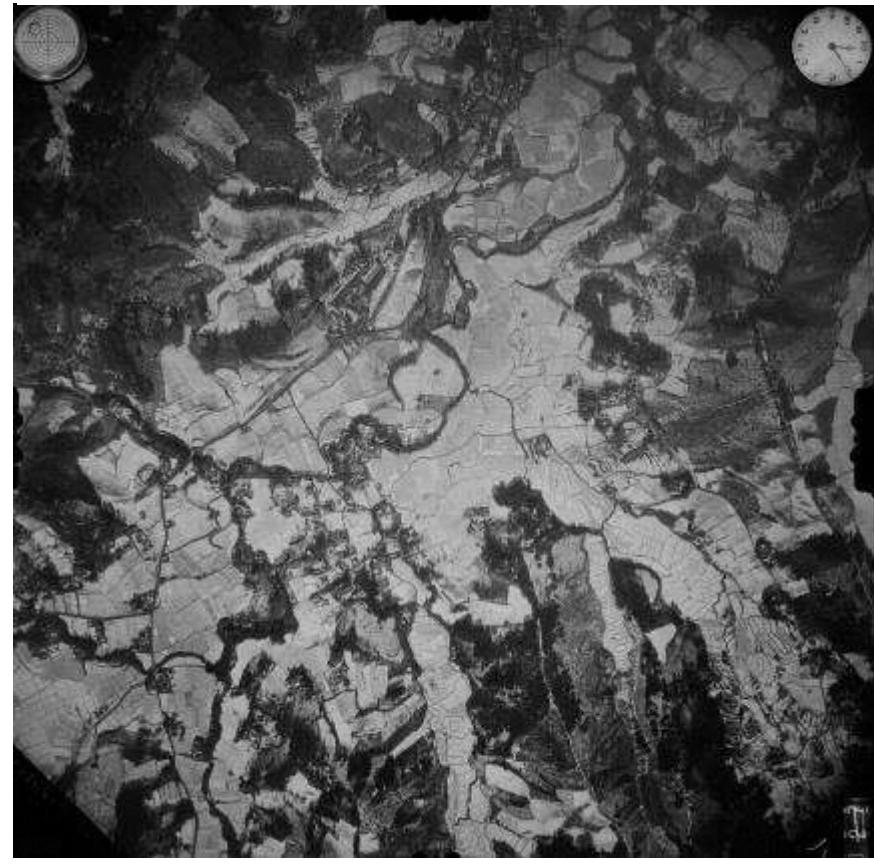
多摩市の移りかわり－2

1935年(昭和10年)



・国土地理院 空中写真(C2-17)
(旧日本陸軍空中写真)

1939年(昭和14年)



・国土地理院 空中写真(C1-12)
(旧日本陸軍空中写真)

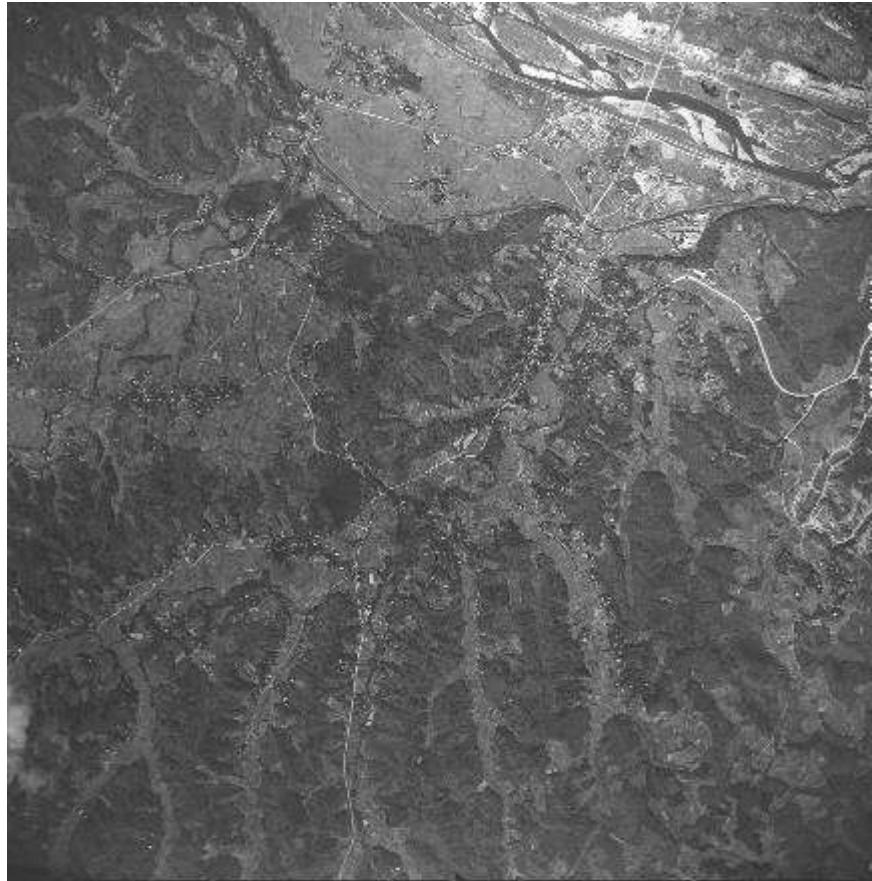
多摩市の移りかわり－3

1949年(昭和24年)



・国土地理院 空中写真(R581-7)
(アメリカ軍空中写真)

1957年(昭和32年)



・国土地理院 空中写真(R1-137)
(アメリカ軍空中写真)

多摩市の移りかわりー4

1971年(昭和46年)

桜ヶ丘カントリー《1960年8月》

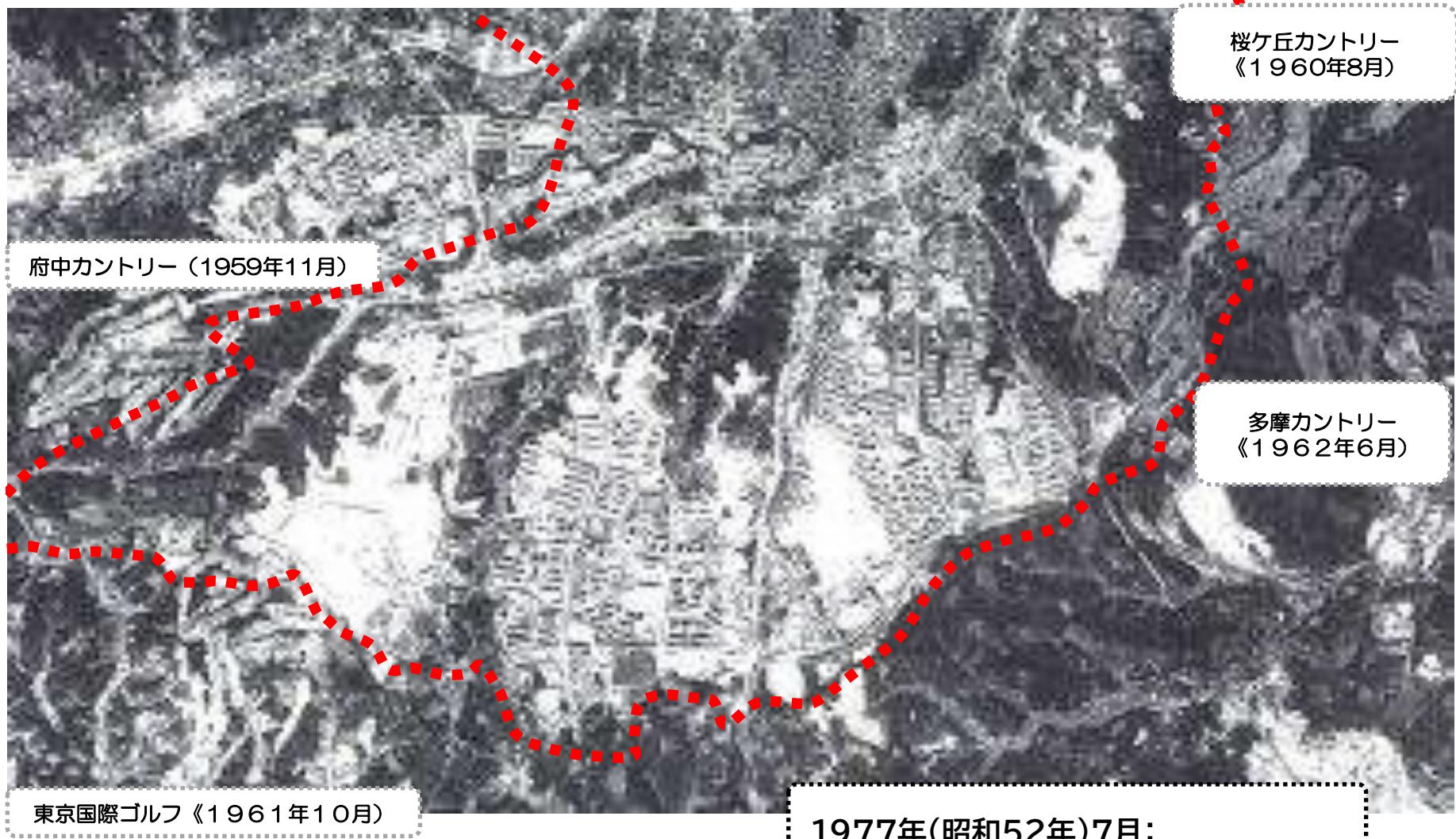
府中カントリー《1959年11月》

多摩カントリー《1962年6月》

東京国際ゴルフ《1961年10月》

1971年(昭和46年)3月:
諏訪・永山地区で多摩ニュータウンの第一次入居が始まる
1971年(昭和46年)4月:
多摩町立永山小学校、永山中学校開校
1971年(昭和46年)11月:
多摩町、稻城町で市制施行され、多摩市、稻城市となる

多摩市の移りかわりー5 1977年(昭和52年)



多摩市の移りかわりー6

2003年(平成15年)



1. グリーンボランティアの事始め



◇1990年代 ・公園・緑地の雑木林が荒れていた



・多摩市の財政ひつ迫の顕著化

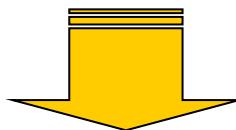
「2000年期間のみどりの審議委員」3名

◇自らが汗を流し、雑木林の環境保全を図る

《3人だけではできない》

◇多摩市や既存活動団体と活動手法を話し合う

まずは、活動をしてもらう仲間を増やす



「多摩グリーンボランティア講座」の開始。

2. 雜木林活動の目的

■ みどりを支える人々(仲間)

- ⇒ “緑”から“みどり”へ = 市民協働のみどりのまちづくりへ
- ⇒ 仲間づくり・活動者の育成=“愛する”みどりから“関わる”みどりの継承



H2O (2008)



R04 (2022)

■ 次世代に継承できるみどりへ

- ⇒ 現状のみどりを維持する(存在効用)
- ⇒ みどりの量を確保しつつ質の向上を図る(景観効用)



■ 多摩市の成熟化に応じたみどりへ

- ⇒ 環境との共生や社会経済への対応(費用対効果)



■ 市民が豊かさを実感できるみどりへ

- ⇒ 地域への愛着心を育むみどりのあり方(利用効用)



■ 自然の恵み(生態系サービス)の重要性

- ⇒ 生物多様性(命のにぎわい)の恵み(SDGs・持続可能)
- ⇒ 雜木林の順応的管理(貴重種や希少種の出現に拘らない)

4. 多摩グリーンボランティア講座の 基本コンセプト

■ みる！きく！やってみる！



→安全に・楽しく、先ずやってみよう。

→活動の方法を知る。(四季折々の雑木林の自然を知る。)

→活動に関わる仲間の輪を広げる

■「共覚動考(ともかくうごこう)」



共:みんな(仲間)で、行政も講師も一緒に汗をかい

覚:見て、聞いて、感じて、覚えていく(みどりを知る)

動:口動ではなく、考動でもなく、行動する

考:あとで自分なりに論理的に考えてみる



議論より、知りえている知識で安全にアクション

“愛するみどりから関わるみどりへ⇒みどりのルネッサンス”

5. 多摩グリーンボランティア講座の構成

■ 初級講座 ※獲得目標：自分のために

- ⇒ 雜木林ボランティア活動の安全な活動・楽しみ
- ⇒ 雜木林の構造と生態系・道具の使い方
- ⇒ 雜木林の活動の基本から活動計画立案、順応的管理の実践



■ 中級講座 ※獲得目標：仲間のために

- ⇒ 草刈機・チェンソー等作業機械の安全な使用方法
- ⇒ 樹木の剪定・樹木の生態
- ⇒ ファーストエイド・活動のリスクマネージメント
- グリーンボランティア活動のリーダーシップ(世話役)



■ 上級講座(未実施) ※獲得目標：地域のために

- ⇒ 管理技術の共有
- ⇒ 自然環境体験の共有
- ⇒ 合意形成のファシリテート(遠くの緑と近くの緑)



5. 多摩グリーンボランティア森木会 22年間の活動の広がり



活動開始年・人数・面積 (令和5(2023)年3月末現在)			
活動箇所名	開始年	活動者数(人)	面積(m ²)
① 多摩GV森木会本部 (GLC活動班含む)	平成13(2001)年9月	82	3,000
② 森木会 多摩中央公園班	平成15(2003)年1月	11	12,000
③ 一本杉公園 みどりの会	平成15(2003)年1月	21	13,900
④ なな山緑地の会	平成15(2003)年1月	31	24,900
⑤ 森木会 よこやまの道班	平成18(2006)年4月	34	12,000
⑥ 永山駅前雑木林(さえずりの森)保全育成の会	平成18(2006)年11月	10	10,000
フレンドツリー・ソーターズ(八ヶ岳多摩市民の森)	平成19(2007)年9月	14	47,800
⑧ 森木会 亀ヶ谷緑地班	平成23(2011)年4月	22	14,800
⑨ どんぐり山を守る会	平成3(1991)年1月	8	17,700
⑩ からきだの道の会	平成23(2011)年12月	14	13,900
⑪ 豊ヶ丘小 学校林活用・再生プロジェクト委員会	平成25(2013)年4月	8	7,100
⑫ 和田緑地の会	平成28(2016)年6月	8	3,200
⑬ 鶴牧西みどりの会	平成29(2017)年4月	13	8,200
⑭ 豊ヶ丘の杜保全の会	令和5(2023)年4月	10	10,300
⑮ (活動予定)原峰公園	R5年内に活動開始予定	8	5,000
活動箇所 15箇所			294 203,800

6. 初級講座の状況

多摩市グリーンボランティア講座初級 受講者数(人)

講座年	受講者	修了者	森木会 入会者	備考
第1期・平成14年(2002)	40	32	30	
第2期・平成15年(2003)	40	31	31	
第3期・平成16年(2004)	40	29	22	
第4期・平成17年(2005)	34	33	23	
第5期・平成18年(2006)	33	25	18	
第6期・平成19年(2007)	34	27	19	
第7期・平成20年(2008)	30	23	17	
第8期・平成21年(2009)	30	26	18	
第9期・平成22年(2010)	42	36	25	
第10期・平成23年(2011)	21	16	13	
第11期・平成24年(2012)	29	25	21	
第12期・平成25年(2013)	33	26	26	
第13期・平成26年(2014)	38	32	29	
第14期・平成27年(2015)	32	31	31	
第15期・平成28年(2016)	28	26	24	
第16期・平成29年(2017)	19	15	15	
第17期・平成30年(2018)	29	27	26	
第18期・令和01年(2019)	22	16	15	
第19期・令和02年(2020) ～令和03年(2021)	27	18	18	コロナ感染対策で 2ヶ年で実施
第20期・令和04年(2022)	17	17	17	講座実施中
第21期・令和05年(2023)	25			
合 計	643	511	438	



12月 入講式



4月 林床アズマネ刈り



8月 活力度調査



1月 雜木林の成り立ち



5月 先進事例視察



9月 群落調査



2月 手ノコで樹木伐倒



6月 カマの手入れ



10月 活動計画立案



3月 実生苗木植付け



7月コドラー調査



10月 修了式

7. 中級講座の状況

多摩市グリーンボランティア講座中級 受講者数(人)			
講座年	受講者	修了者	備考
第1期・平成17年(2005)	15	7	
第2期・平成18年(2006)	13	9	
第3期・平成19年(2007)	11	6	
第4期・平成20年(2008)	5	2	
第5期・平成21年(2009)	16	13	
第6期・平成22年(2010)	13	7	
第7期・平成23年(2011)	19	17	
第8期・平成24年(2012)	14	12	
第9期・平成25年(2013)	16	10	
第10期・平成26年(2014)	23	17	
第11期・平成27年(2015)	19	16	
第12期・平成28年(2016)	18	14	
第13期・平成29年(2017)	18	8	
第14期・平成30年(2018)	14	9	
第15期・令和01年(2019)	18	13	
第16期・令和02年(2020)	10	8	
第17期・令和03年(2021)	7	6	
第18期・令和04年(2022)	11	4	
合 計	260	178	



7月 仮払機



10月 チェンソー(その2)



8月 救命救急



10月 チェンソー(その3)



9月 樹木剪定



9月 チェンソー(その1)



11月 リスクマネジメント



11月 修了式

8-1. 雜木林での活動状況

多摩グリーンボランティア森木会

では、人と自然が共生できるまちづくりを目指して、雑木林の保全活動に関わる市民活動を積極的に推進し、グリーンボランティアの仲間づくりのための講座を多摩市と協働で企画運営しています。講座修了生を中心に、多摩市内の公園緑地でボランティア活動を続けています。



多摩中央公園班は、多摩中央公園の東から南の遊歩道に沿った竹林と雑木林で活動しています。竹林では、美しい竹林を保つため密集竹や古竹を整備し、伐採した竹を使って竹垣や腐葉土のピット作りに利用しています。雑木林地区では、希少植物を保護し、子ども達が安心して遊べる林をめざしています。



よこやまの道班は、「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれた多摩よこやまの道で活動しています、一年を通じて散策を楽しむ方が訪れます。諏訪ヶ岳やモミジの広場を中心に落葉樹や豊かな野草が活動の励みとなっています。多様な世代に愛される「よこやまの道」を目指しています。

8-2. 雜木林での活動状況



一本杉公園みどりの会は、一本杉公園公園で活動しています。野球場や炭焼き小屋、古民家があり、里山の風景が楽しめます。

雑木林では、クヌギやコナラの広葉樹が四季折々の野草と共に、心地よい空間づくりを持続させる活動を仲間と楽しく行っています。



永山駅前雜木林保全育成の会は、永山駅のバスロータリーの西側にあり、四季折々の豊かな多摩丘陵の自然が残る貴重な里山です。

多摩市の緑の象徴として、2006年（平成18年）に都市再生機構から多摩市が買い取り、市民の手で大切に保全育成を行っています。



なな山緑地の会は、和田緑地保全の森で活動しています。西の山(落葉広葉樹)、中の山(常緑広葉樹)、東の山(落葉広葉樹とアズマネザサ)のそれぞれの特徴から、植物や生物も集まる魅力的な緑地となっています。また、めかいや木工のクラフトも会員のアイデアで楽しんでいます。



フレンドツリーサポーターズが活動する豊ヶ丘の杜は、住宅地に囲まれた植生豊かな照葉樹林の森です。湧水池にはサワガニも生息する里山緑地です。

豊ヶ丘小学校の児童や市民など誰もが楽しめる自然環境を育成する目標で、生態調査や湧水環境整備などを行っています。

8-3. 雜木林での活動状況



亀ヶ谷緑地班が活動する亀ヶ谷緑地には、雑木林と竹林があり“身近な憩いの場、散策スポット”として注目されています。春から初夏の新緑が美しく、ウグイスのさえずりを聞くこともできます。里山の景観や生態系にとってどのような雑木林が好ましいのか、楽しく勉強をしながら活動しています。



からきだの道の会が活動するからきだの道は、多摩市の南西部に残る斜面地で昔の谷戸の面影も残しつつ、新しい街並みにとけこむように復元・整備された緑地です。安全と健康を第一に”無理せず、楽しく、次世代に環境資産をつなげていく”ことをモットーに活動を続けています。



どんぐり山を守る会は、どんぐり山公園で活動しています。市内で最も早く平成3年から市民による保全活動が始まった緑地です。シュンラン、キンラン、ギンラン等の種が豊富な緑地です。植生の生育時期に気を付けながら、伐採後のタケや樹木の利用方法も楽しんでいます。



豊ヶ丘小学校学校林活用・再生プロジェクトは、学校の西側に残る約7100m²の雑木林で、児童の環境学習のための活用・再生の取組みを行っています。豊かな自然に親しむことで様々な気付きがあり、さらに知りたいこと、学びたいことが生まれます。

8-4. 雜木林での活動状況



和田緑地の会が活動する和田緑地は、日野市との境にある小さな緑地です。なかなか味わい深い緑地で、下草刈り、散策路の作成、巣箱づくりなど近隣の市民子どもたちと楽しく活動しています。

今後は、シイタケ栽培やネイチャーゲームなど「森を楽しむ」企画を増やしたいと考えています。



鶴牧西みどりの会は、鶴牧西公園内に残された雑木林を拠点として活動しています。春にはキンランやギンランが咲き、タマノカンアオイやミヤマナルコユリなども自生しています。いつまでもこの原風景を保つため、楽しみながら保護・維持活動を続けます。



グリーンライブセンター活動班は、多摩市立グリーンライブセンターの雑木林やモウソウチク林で活動しています。講座の修了者を対象に、しばらくは活動の機会が少ない方を対象に、活動への誘いと活動の慣れを体験してもらうために行っています。モデル竹林を目指しています。

問合わせ：

多摩グリーンボランティア森木会事務局
〒206-0033

東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園内
多摩市立グリーンライブセンター

電話042-375-8716 FAX 042-375-0087
グリーンライブセンターHP

<http://www.keisen.ac.jp/tglc/>

9. 雑木林保全活動の成果

- ・地域での仲間づくり

⇒コミュニケーション、志向の共有、認め合い



- ・活動の楽しみ、生きがい、学び直し

⇒活動場所での自然発見、マイフォレスト

- ・里山景観の復元

⇒生物多様性の創出、四季折々の自然



- ・地域とのつながり

⇒保育園・幼稚園、小学校など子ども連携



- ・多摩市行政との協働連携

⇒愛でるみどりから関わるみどりへ

- ・社会的評価

⇒活動成果の表彰

- ・平成23年10月 「第31回緑の都市賞」で内閣総理大臣賞

- ・平成26年 2月 「平成25年度 Eco Japan Cup エコまちづくり賞」¹⁹



10. 雜木林保全活動の課題

・活動者の高齢化と減少

→活動者の高齢化、活動者の減少

→高齢の活動者が元気、みどりの活動は健康につながる

→高齢化 ➔ 幸齢化 ➔ 多様な世代の参加



・講座受講者の減少

→受講者の減少、講師の確保

→女性の受講者が増えた ➔ 外へ出る ➔ 仲間づくり

→みどりの幸齢者の知恵の提供、学び直し



・多摩GV森木会 活動と運営の継承

→森木会運営の継承と継続、運営費の確保、運営事務局機能の確保

→みどり(雑木林・里山・生物多様性)の存在・利用価値の継続



・活動地域の広がり

→多摩市内で保全活動がなされていない雑木林での活動

→集合住宅地内での森木会技術の活用(管理費軽減)



・多摩市行政との協働連携

→愛でるみどりから関わるみどりへの活動の魅力づけ

→健幸まちづくりへの寄与



“多摩市のみどりを100年後、200年後の次の世代に引き継ぎましょう”

ご清聴ありがとうございました。

多摩グリーンボランティア森木会
名誉会長 川添 修
2023年6月17日 21



※その他 -1

・SDGs目標の底辺を支えるSDGsウエディングケーキの理解

- ⇒自然共生社会、低炭素社会、循環型社会がSDGs17のプラットホームを支える 図-1, -2
- ⇒暮らしにおける9つのサステナブルラベルの活用 → 12番目の目標:つくる責任・使う責任
- ⇒ふだんの生活の中でも地球にやさしい暮らし → ラベル商品の活用
- ⇒自然環境における生き物の基盤は土・水・光 → 自然界での生産者は緑(生き物のつながり)

・科学技術の発達 (カーボンリサイクル⇒化学品, 燃料, コンクリート, グリーン・ブルーカーボン)

- ⇒村木海風(むらき かずみ)→大気中から二酸化炭素を直接取り出しエネルギーに変える
- ⇒再生電力の水素を活用したエネルギーの地産地消 → (株)DENSOなど
- ⇒廃食油(天ぷら油等)の燃料化(SAF化) → スシローなど

・手入れがなされない樹林、斜面、隣地樹木が及ぼす影響

- ⇒大木による林床樹地盤の揺れ 動画-1, -2
- ⇒管理(人手が入らない)がなされていない斜面の崩落 動画-1, -2
- ⇒越境樹木の枝切り → 民法第233条第3項1号 改正 2023年4月1日 (必要3項目)

・進化論を唱えたチャールズ ダーウィン(1809~1882)が言ったとされる言葉

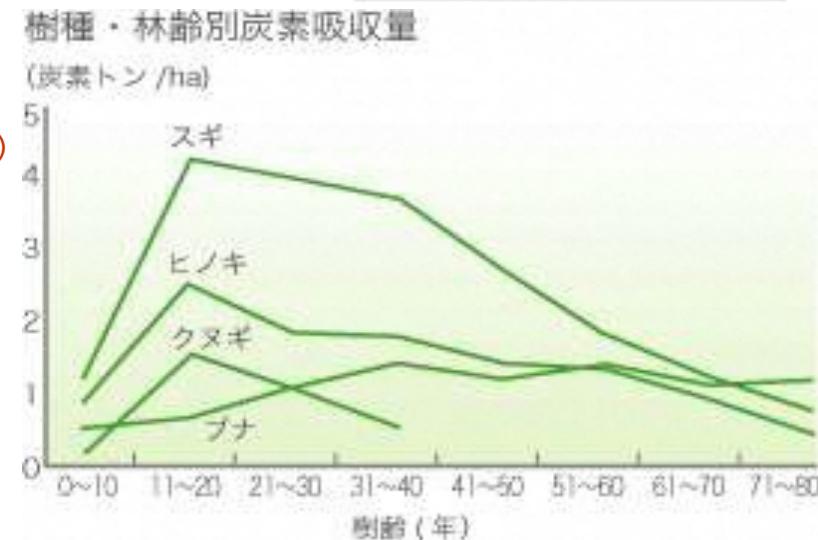
『この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか、最も頭の良いものか。否それは、変化に対応できる生き物である。』 『種の起源』(進化論)1859

→ 「展開出現:進化(Theory Evolution」 社会学者 ハーバート スペンサー(1820~1903)が広めた言葉
「世代を超えて伝わる変化(Descent with Modification)」、また「自然選択(Natural Selection)
という言葉を使用している。

※その他 - 2

・森林の二酸化炭素吸収力

- ⇒樹林(植物)は、二酸化炭素(CO₂)を吸収し、地上部および地中部に貯蔵している。これは地球温暖化の防止にも役立っている。その吸収量は、樹種や樹齢によって異なる。例えば樹齢の50年のスギ林では、1ha当たり1約70トンの炭素を貯蔵している。1本当たり、約190kgになると試算されている。これを50年で割れば、1年間平均では約3.8kgの炭素(約14kgの二酸化炭素)を吸収したことになる。
- ⇒人間1人が呼吸により排出する二酸化炭素は年間約320kgと云われ、これを上記のスギが吸収するとなると約23本必要であると云われている。
- ⇒自家用車1台当たり排出される二酸化炭素は、年間約2,300kg、この吸収に必要なスギは約160本と試算される。
- ⇒IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change) 気候変動に関する政府間パネルの報告書によると、世界全体の森林などが持つ炭素吸収量は、2050年までの期間において化石燃料の燃焼による炭素排出量の10~20%に相当すると予測されている。



※その他 – 3

・気象による影響

⇒強風による影響(多摩センター レンガ坂 ユリノキ)

- ・台風15号
- ・2019年9月9日 午前6時頃
- ・最大瞬間風速 57.5m/h
(アメダス千葉、観測史上1位)

⇒気温による影響

- ・開花時期の変化
- ・枝葉の伸長障害(光合成飽和気温)
- ・実生の不成熟



・病虫害による影響

⇒カシノナガキクイムシによるナラ枯れ病

- ・コナラ、クヌギ、シラカシ、ケヤキ など

⇒ !カエンタケに注意 !

⇒クビアカツヤカミキリによる立枯れ病

- ・バラ科(サクラ、モモ、ウメ、スモモ)など

・樹木腐朽胞子菌による倒木

⇒ベッコウタケ・ナラタケによる樹木枯れ病

- ・ソメイヨシノ、イチョウ、ケヤキ、エノキ、ユリノキ、シイ・カシ類、クスノキ など

⇒チャイガラタケ(サルノコシカケ科)・チヂレタケによる樹木枯病

- ・バラ科(サクラ類、広葉樹類)

活動紹介

多摩市若者会議

高野 義裕 さま

第3回多摩市気候市民会議 多摩市若者会議資料





自己紹介

高野 義裕

[本業] 都内企業のシステムエンジニア

[家族] 妻と6歳の息子の3人家族

多摩ニュータウンの団地暮らし

[経歴]

多摩市出身

中央大学附属高校→中央大学卒業

[地域活動]

合同会社MichiLab代表社員(副業)

多摩ニュータウン学会理事

パルテノン多摩ミュージアム 市民学芸員

[地域活動の経歴]

タウン誌編集(大学生時代)

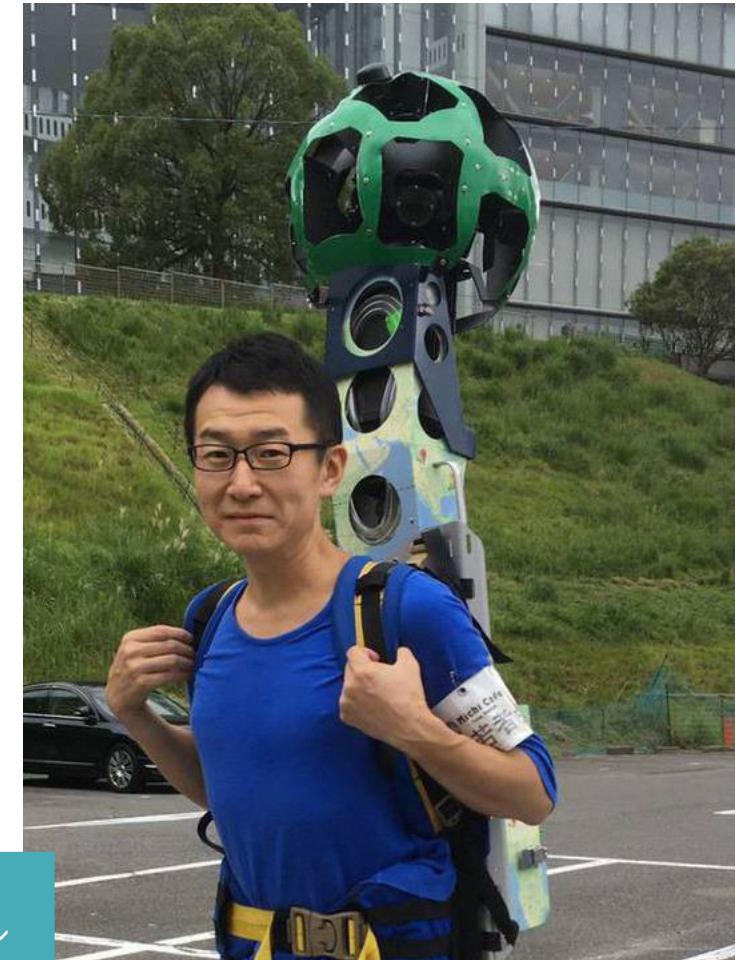
多摩NTの事業協同組合設立PJ(頓挫)(大学生時代)

多摩市若者会議参加メンバー(2017年)

多摩市若者会議実行委員(2018年・2019年)

就職で多摩を離れ
結婚後出戻り

現在は運営メン
バー





多摩市若者会議とは（簡単に）

2017年6月 多摩市事業でスタート、若い世代が「住んでみたい」、「訪れてみたい」と思えるようなソフト面の魅力をつくったり、その魅力を発信します。

アイデアを出して



自分たちで実践も



カフェDIY



遊歩道ストリートビュー撮影



ワークショップの様子



商店街でアート作品製作



MichiCafe

- ・クラウドファンディング200万円超を資金調達し、2019年4月オープン
- ・若者の活動＆交流拠点
- ・コミュニティカフェとして1日店長方式で毎週土曜日17:00～22:00営業中



年齢問わず、1日店長募集中！



遊歩道Googleストリートビュー撮影

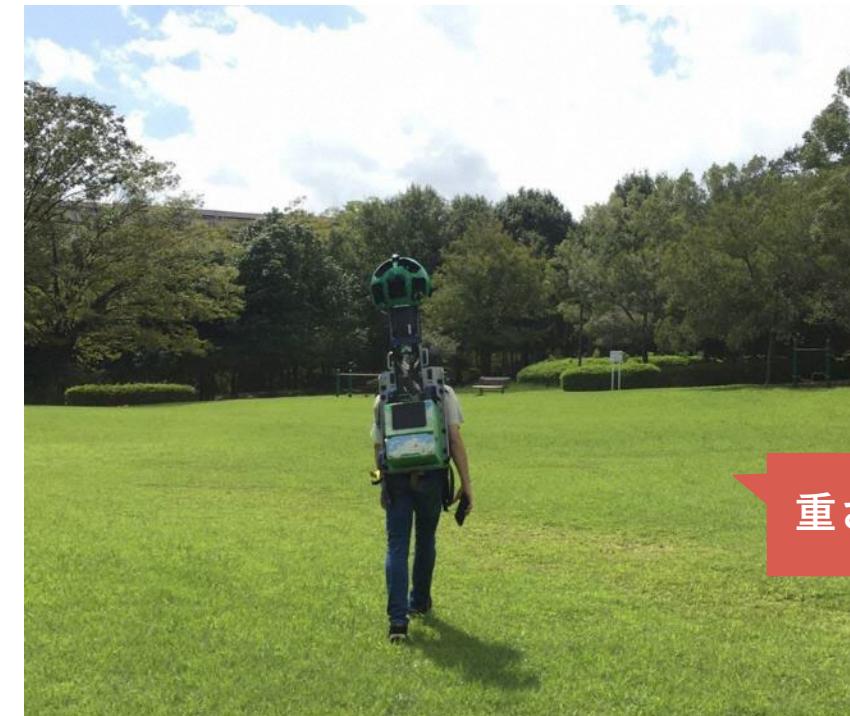


公開されたストリートビューの例(鶴牧東公園)



公開されたストリートビューの例(貝取北公園)

多摩市の遊歩道網は全長41Km超で日本一。多摩市がGoogleのパートナープログラムを申請し、トレッカー(360度カメラ)を借用、多摩市若者会議メンバーが中心に撮影。



撮影中の様子



多摩市若者会議の 環境関連の取り組み事例



たまてん

多摩市若者会議メンバーがデザインした
「たま気候みらいプロジェクト」のキャラクター



自分たちの使う電気の切り替え

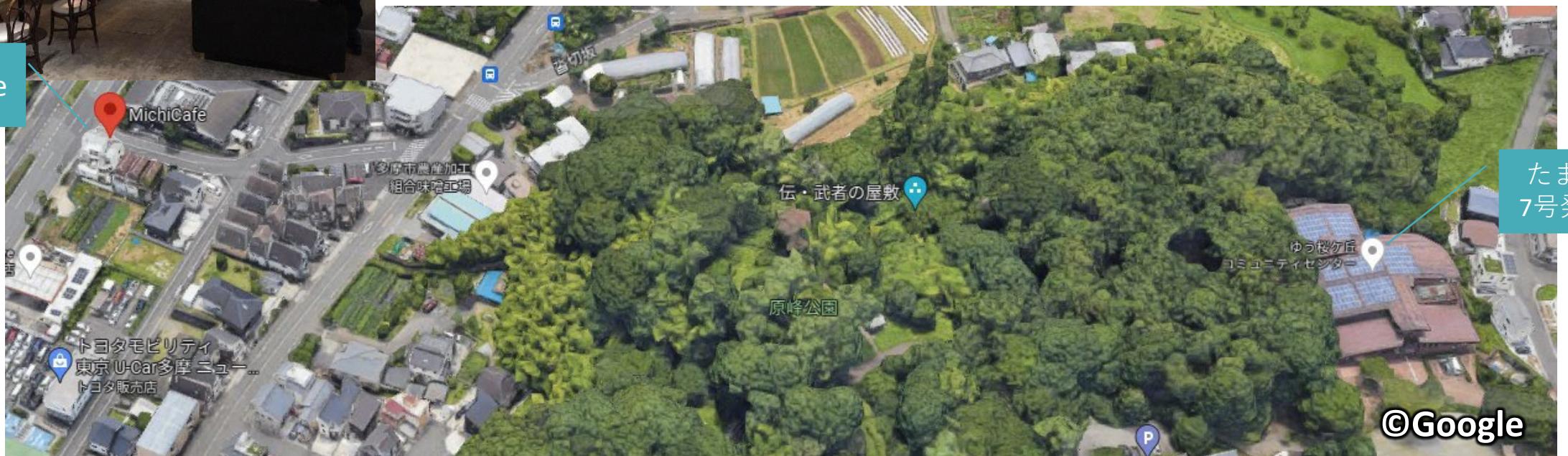
「MichiCafe」で使用する電力を多摩電力が多摩市の公共施設等の屋上のソーラーパネルで発電した電力に切り替え



- ・再生可能エネルギーへの切り替え（脱炭素化）
- ・電力の地産地消費



MichiCafe



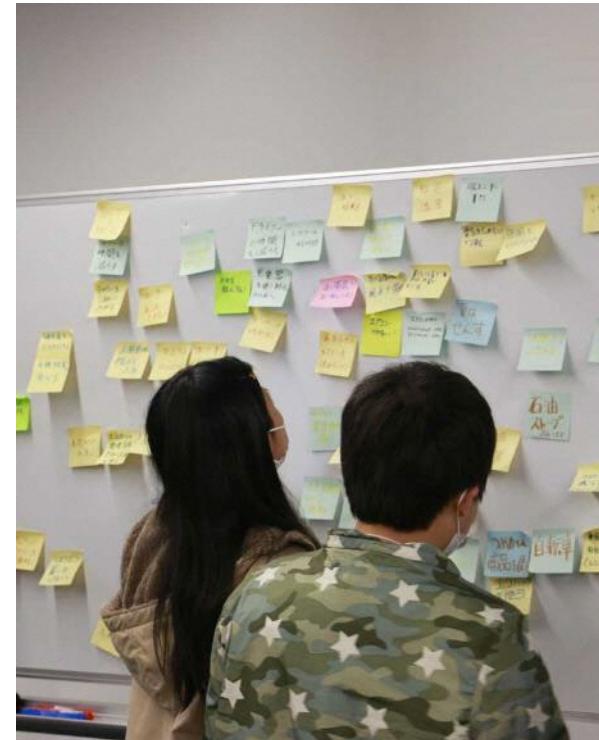
たまでん
7号発電所

©Google



環境を考えるワークショップの運営

多摩循環型エネルギー協会のたま気候みらいプロジェクトの取り組みのひとつ「多摩市脱炭素ワークショップ」の運営を担当、気候変動について理解を深めながら、自分たちで何ができるのかをみんなで考えました。





街なか清掃プロジェクト

豊ヶ丘の医者村橋周辺を高圧洗浄機も使ってみんなで綺麗にしました。

■清掃前



■清掃中



■清掃後





その他取り組み

- ・ MichiCafeでサルベージ・パーティーを開催
- ・ MichiCafeでの地元産食材（自分たちで育てた野菜など）の積極利用
- ・ 普段の活動はなるべくスマホで共有してなるべくペーパーレス
- ・ ワークショップで使った紙は資源リサイクルへ
- ・ 本の交換会イベントの開催（日本総合住生活（株）と共催）





どうやって実践するの？

●アイデア出し

何ができるかを考えるのもOKだけど、
いったん、制約をとっぱらって、自由にやりたいことのアイデアを出しています



●実践

どうすればできるかを考えます

⇒小さく試してみる

- ・自分たちだけでやってみる
- ・協力者を見つける（多摩市若者会議が協力者になります）
- ・イベント等に相乗りさせて貰う

まず、できる範囲でやってみて、次にどうするか考えてみましょう。



多摩市若者会議からお知らせ



- ・多摩市若者会議公式サイト
<https://tamayouth.jp/>



メンバー募集中！



多摩市若者会議

検索

休憩

グリルーブ

ワーク

第3回のテーマ

具体策

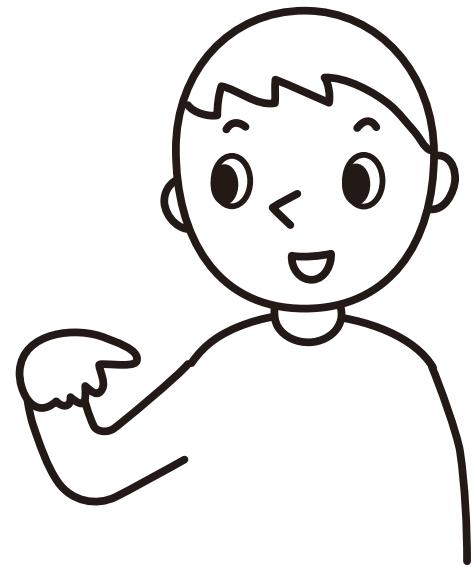
脱炭素に向けて：社会編

脱炭素に向けて、
まちに必要な
機能やしくみを
考えよう

① 自己紹介

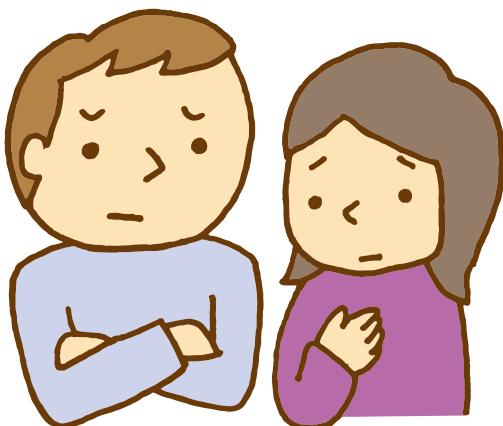
1人ずつ、自己紹介しよう

- ・お名前
- ・お住まいのエリア



② 意見を付箋に書き出す

個人の身近な生活の中での
取組や工夫だけでは
脱炭素の実現が難しいことは？



意見を共有する

付箋に書いた内容について、
一人ずつ共有していこう。



ファシリテーター
が模造紙に
整理していきます

③ アイデア出し

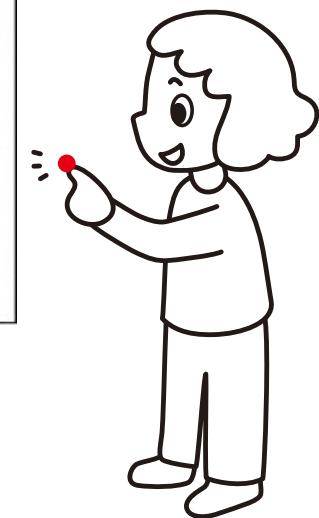
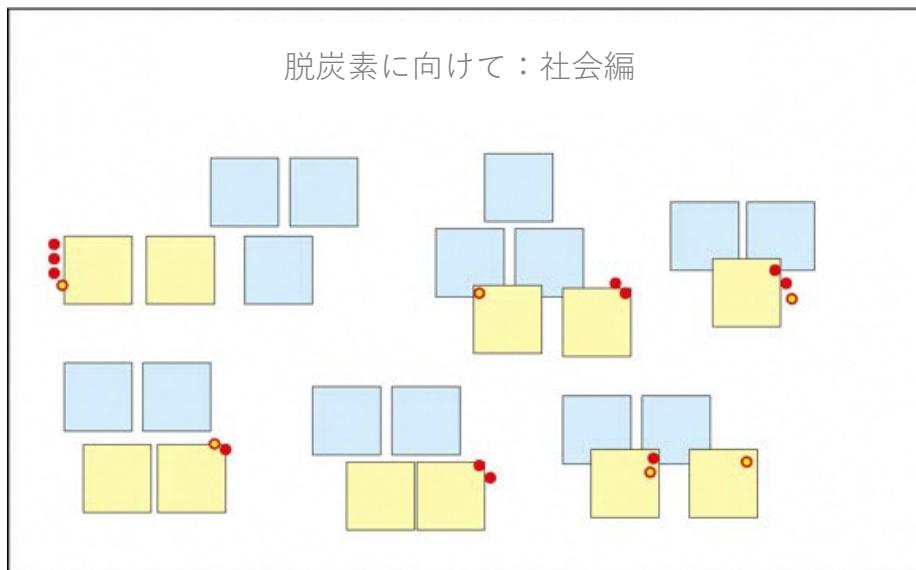
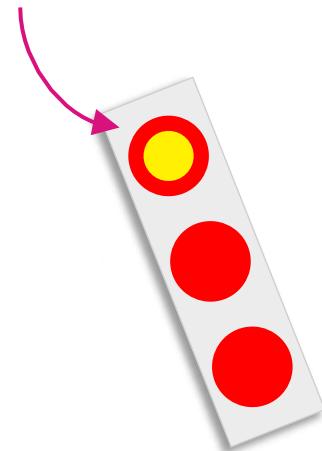
脱炭素の実現に向けて、
まちにはどんな機能・しくみが
あつたらいいなと思いますか？



④ グループ内でシール投票

「実現すべき」「取り組むべき」だと思う、
まちの機能やしくみについて、投票しよう。

とくに
実現したい！
と感じたもの



⑤ イチオシアイデアをまとめる

グループでイチオシだと思った
アイデアを3つまとめていこう

①どんなアイデア？	②脱炭素以外にこんなアイデアが期待できそう！ (アイデアの相乗効果)	
③イチオシな理由は？	④実施する上での課題	

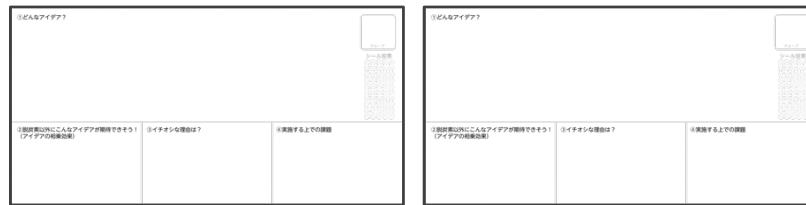
シール投票

「短冊」シート

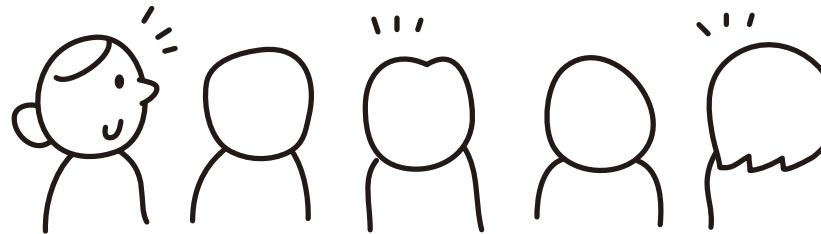
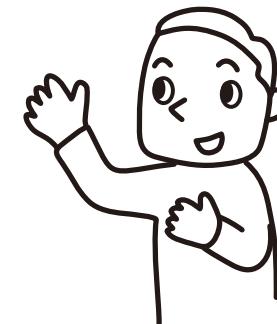
皆さんの
お意見をもとに、
ファシリテーター
が「短冊」シートに
書いていきます

⑥ 各グループの成果の共有

各グループで取りまとめた
グループワークの成果を発表しよう

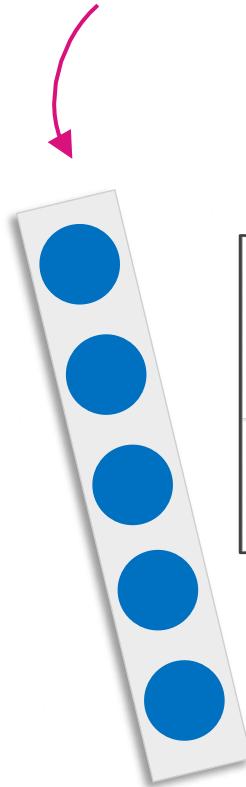


私たちの
グループでは・・・



⑦ 全体でシール投票

みんなの発表を聞いて、
「取り組むべき」と思ったアイデアについて、
一人5枚までシール投票しよう。

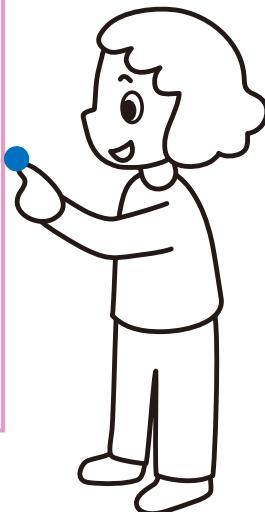


①どんなアイデア？	②創造性以外にこんなアイデアが期待できそう！ （アイデアの相乗効果）	③イチオシな理由は？	④実施する上での課題

「短冊」シート

シール投票

「短冊」シートの 右の欄に 貼っていこう



先生からのアドバイス

おさらい



興味がない人も変わっていかなければ
ならない、という視点が
第3回の議論につながると良い

すぐ実施すること、
先に実施することなど、
時間軸を踏まえて検討できると良い



グルーブ

ワーク

スタート！

次の
ご案内

投票

**脱炭素に向けて、多摩市では
どんな将来像を描き、
どんな具体策を実施していくべきか？**

をまとめていくための投票アンケートです。

みなさんの投票結果をもとに、
第4回の議論を展開していきます。

形式 オンライン(原則)

期間 6月24日～7月1日(予定)

* 多摩市からの案内メールをご確認ください

第4回

脱炭素に向けた取組 市民・行政・企業が協働で できることを考えよう

7月8日（土）13:30～17:15

西会議室1階 第1～3会議室

第1回と
同じ会場

アンケート 記入のお願い

第3回アンケートについて

手元の紙またはQRコードから回答をお願いいたします。
スマートフォンの方は横向きでの回答がオススメです！



お疲れさまでした！次回もよろしくお願ひいたします。